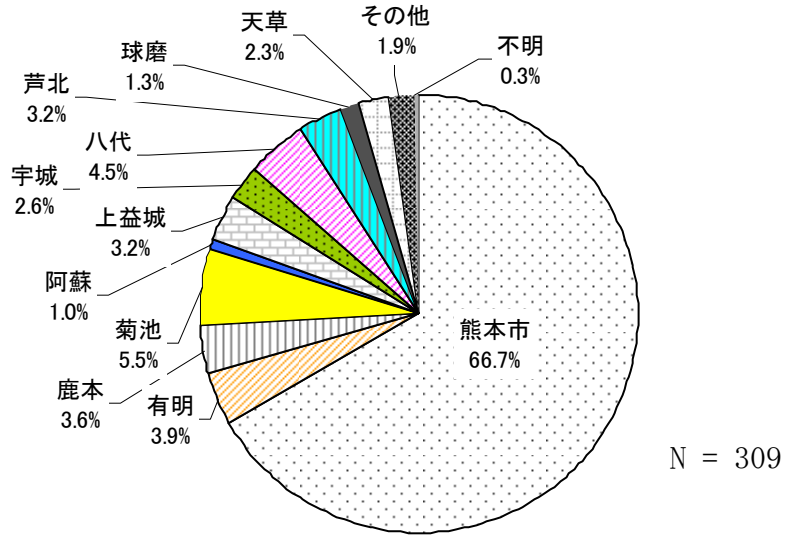


(1) 勤務地

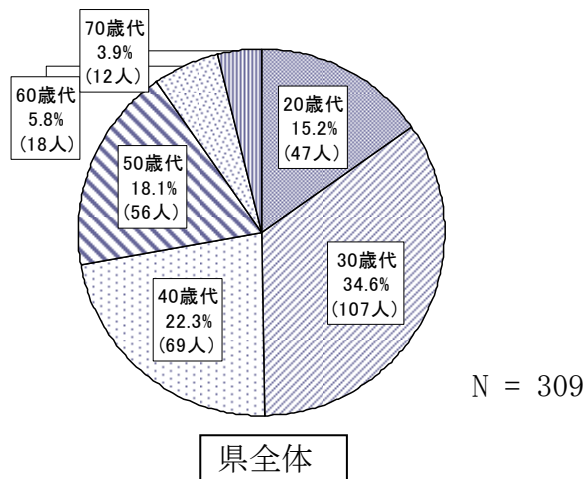
回答者の勤務地は、熊本市が 66.7%と全体の 3 分の 2 を占めている。

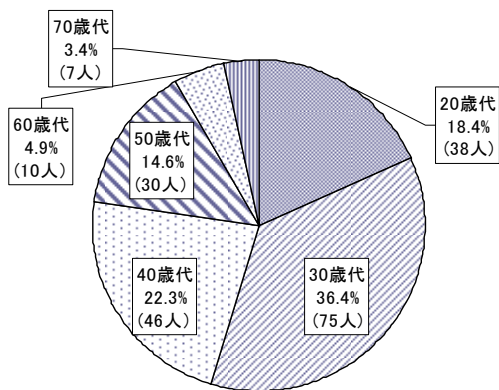
熊本市	206
有明	12
鹿本	11
菊池	17
阿蘇	3
上益城	10
宇城	8
八代	14
芦北	10
球磨	4
天草	7
その他	6
不明	1



(2) 年齢

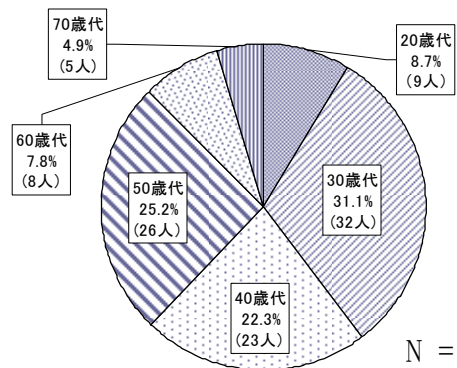
回答者の年代は、30歳代が 34.6%で最も多く、40歳代、50歳代と続き、20歳代は 15.2%であった。





熊本市

N = 206



熊本市以外

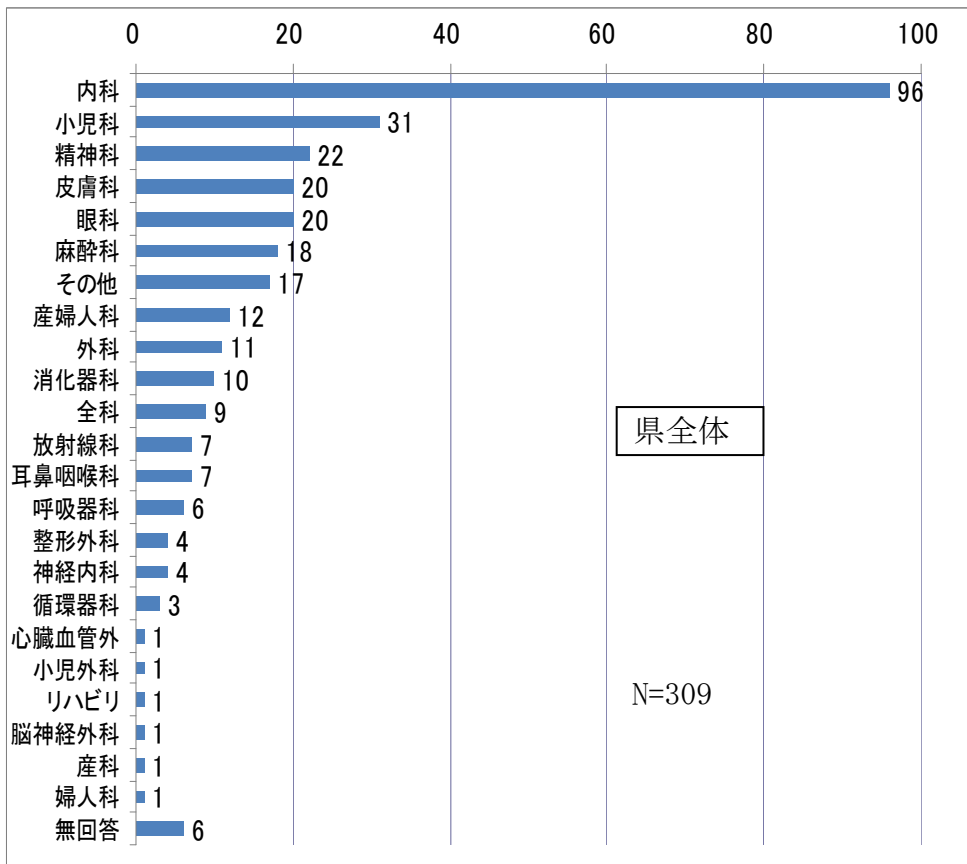
N = 103

(3) 主たる診療科目

内科が最も多く、次いで小児科、精神科の順となっている。

熊本市以外では、小児科より精神科の方が多い。

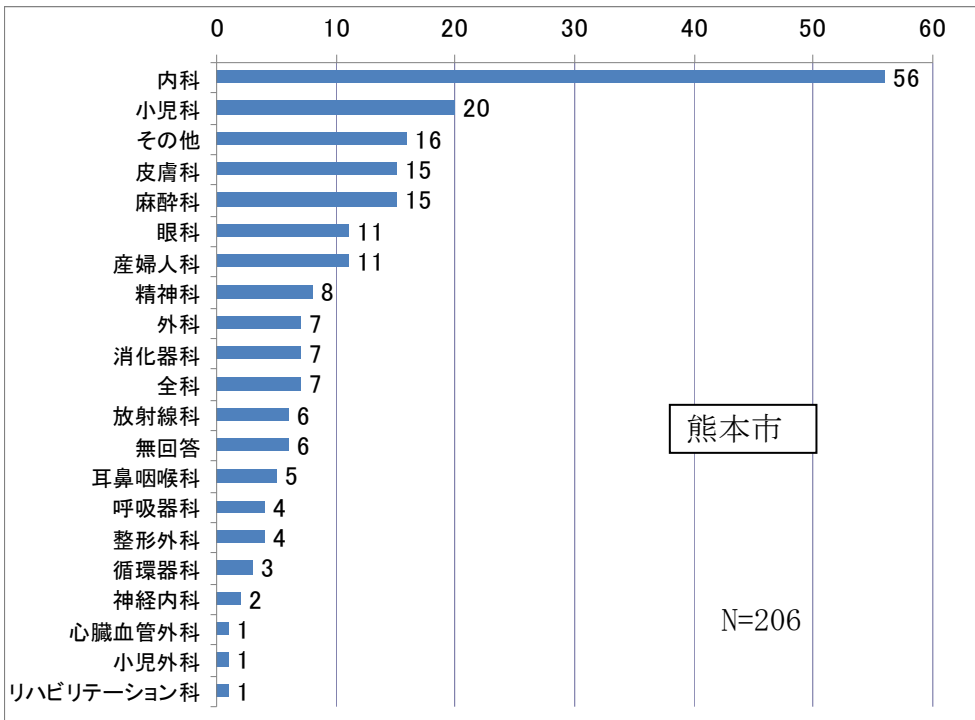
診療科	人数
内科	96
小児科	31
精神科	22
皮膚科	20
眼科	20
麻酔科	18
その他	17
産婦人科	12
外科	11
消化器科	10
全科	9
放射線科	7
耳鼻咽喉科	7
呼吸器科	6
整形外科	4
神経内科	4
循環器科	3
心臓血管外	1
小児外科	1
リハビリテーション科	1
脳神経外科	1
産科	1
婦人科	1
無回答	6



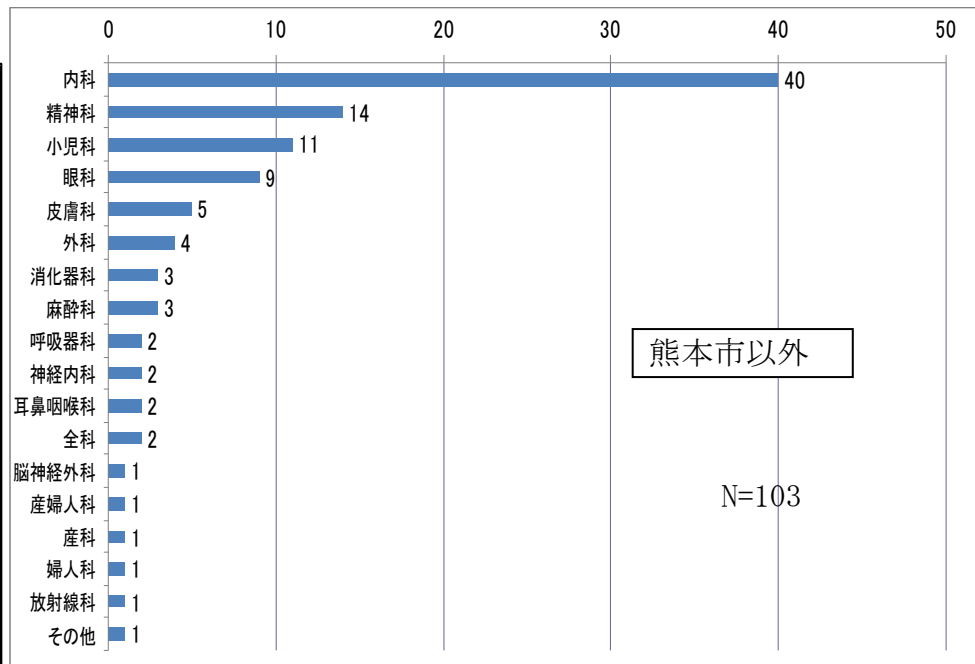
県全体

N=309

診療科	人数
内科	56
小児科	20
その他	16
皮膚科	15
麻酔科	15
眼科	11
産婦人科	11
精神科	8
外科	7
消化器科	7
全科	7
放射線科	6
無回答	6
耳鼻咽喉科	5
呼吸器科	4
整形外科	4
循環器科	3
神経内科	2
心臓血管外科	1
小児外科	1
リハビリテーション科	1



診療科	人数
内科	40
精神科	14
小児科	11
眼科	9
皮膚科	5
外科	4
消化器科	3
麻酔科	3
呼吸器科	2
神経内科	2
耳鼻咽喉科	2
全科	2
脳神経外科	1
産婦人科	1
産科	1
婦人科	1
放射線科	1
その他	1



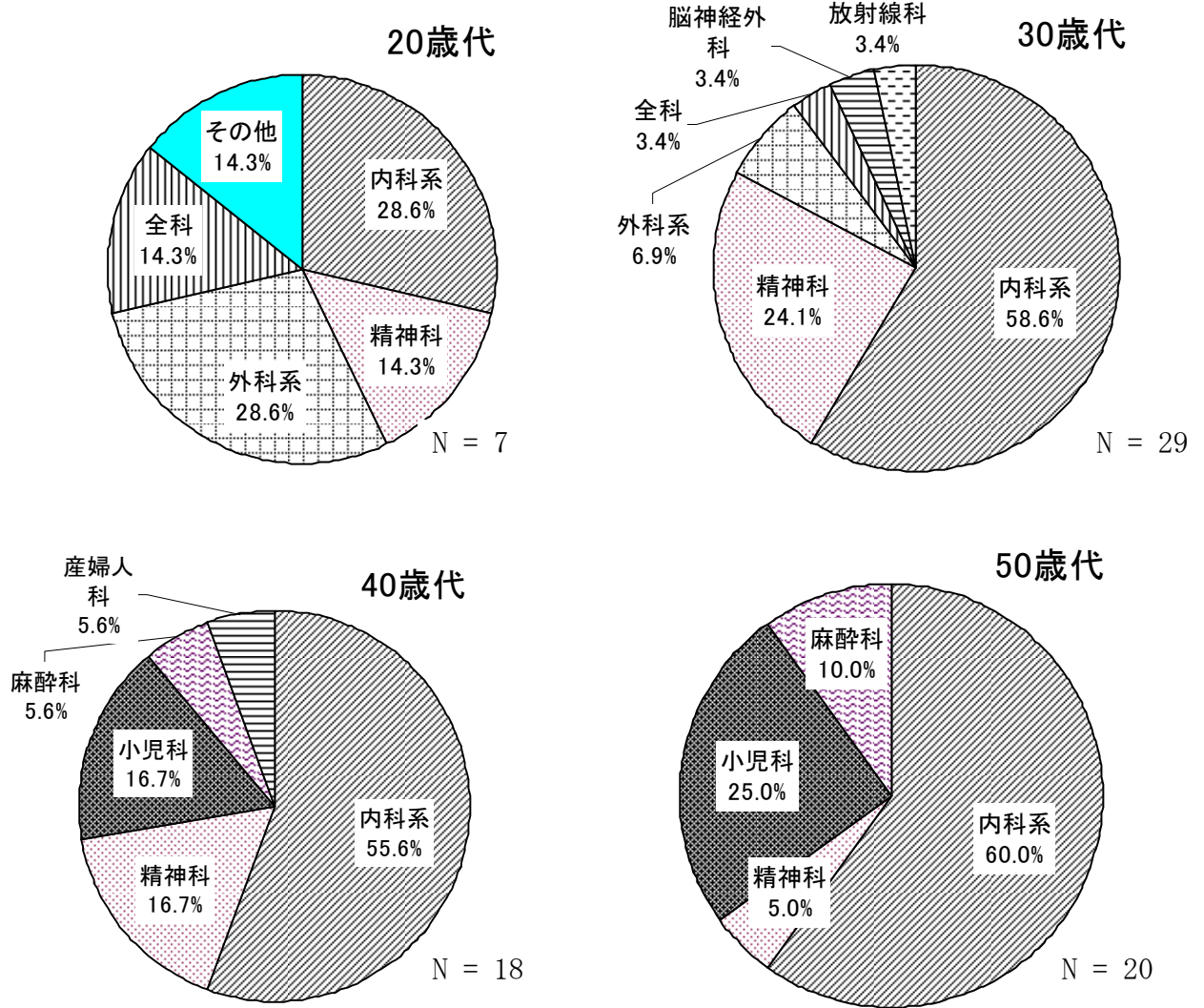
(参考)

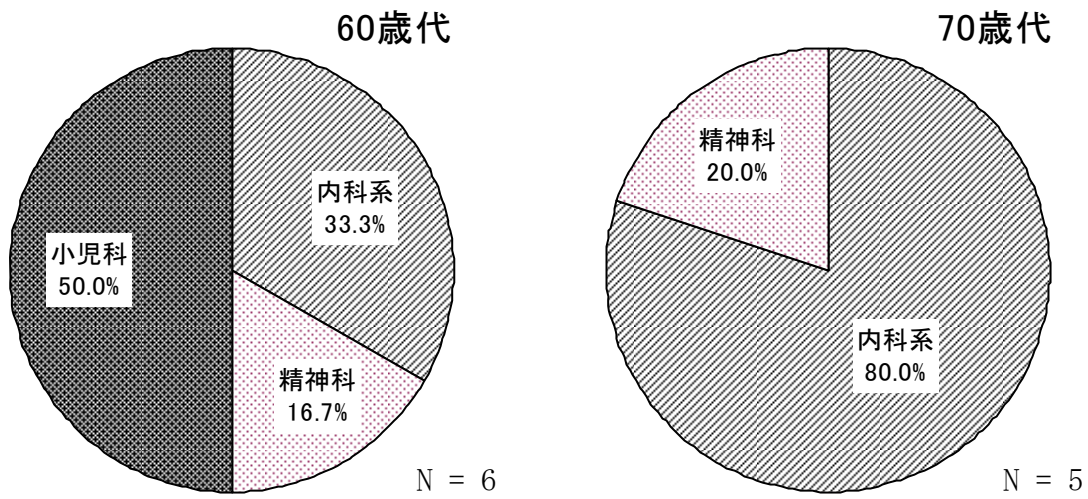
・主な診療科（年代別）

熊本市以外において、各年代とも内科系が最も多く、次いで 20 歳代は外科、30 歳代は精神科、40 歳代は小児科・精神科、50 歳代は小児科となっている。

	内科系	精神科	小児科	外科系	麻酔科	全科	産婦人科	脳神経外科	放射線科	その他	計
20歳代	2	1		2		1				1	7
30歳代	17	7		2		1		1	1		29
40歳代	10	3	3		1		1				18
50歳代	12	1	5		2						20
60歳代	2	1	3								6
70歳代	4	1									5
計	47	14	11	4	3	2	1	1	1	1	85

熊本市以外



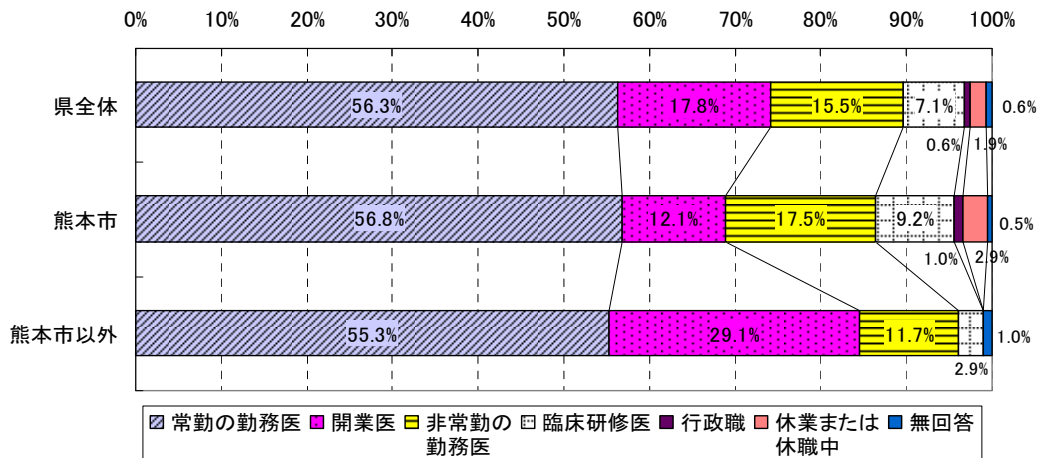


※ 〈内科系〉
 ・内科、呼吸器科、消化器科、循環器科
 〈外科系〉
 ・外科、整形外科、心臓血管外科、小児外科

(4) 現在の勤務形態

常勤の勤務医が 56.3%と半数以上であり、次いで開業医 17.8%、非常勤の勤務医は 15.5%であった。

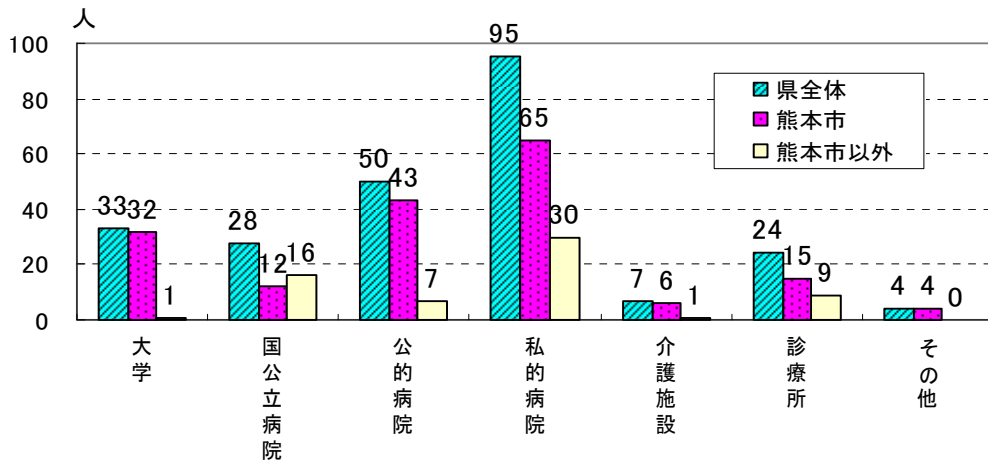
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
常勤の勤務医	174	117	57
非常勤の勤務医	48	36	12
臨床研修医	22	19	3
開業医	55	25	30
行政職	2	2	
休業または 退職中	6	6	
無回答	2	1	1



(5) 勤務先（常勤・非常勤の勤務医、臨床研修医の方のみ）

勤務医・臨床研修医のうち、約4割は私的病院に勤務している。

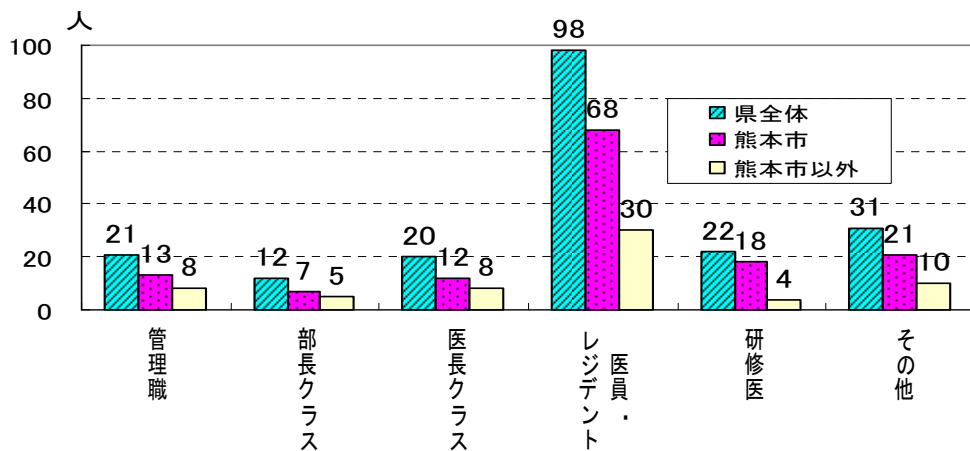
	県全体 N=239	熊本市 N=172	熊本市以外 N=67
大学	33	32	1
国公立病院	28	12	16
公的病院	50	43	7
私的病院	95	65	30
介護施設	7	6	1
診療所	24	15	9
その他	4	4	0
無回答	9	4	5



(6) 役職（常勤・非常勤の勤務医・臨床研修医の方のみ）

医員・レジデント(後期研修医)が最も多く、次いでその他であり、研修医、管理職、部長クラスの順であった。(複数回答可)

	県全体 N=239	熊本市 N=172	熊本市以外 N=67
管理職	21	13	8
部長クラス	12	7	5
医長クラス	20	12	8
医員・レジデント	98	68	30
研修医	22	18	4
その他	31	21	10



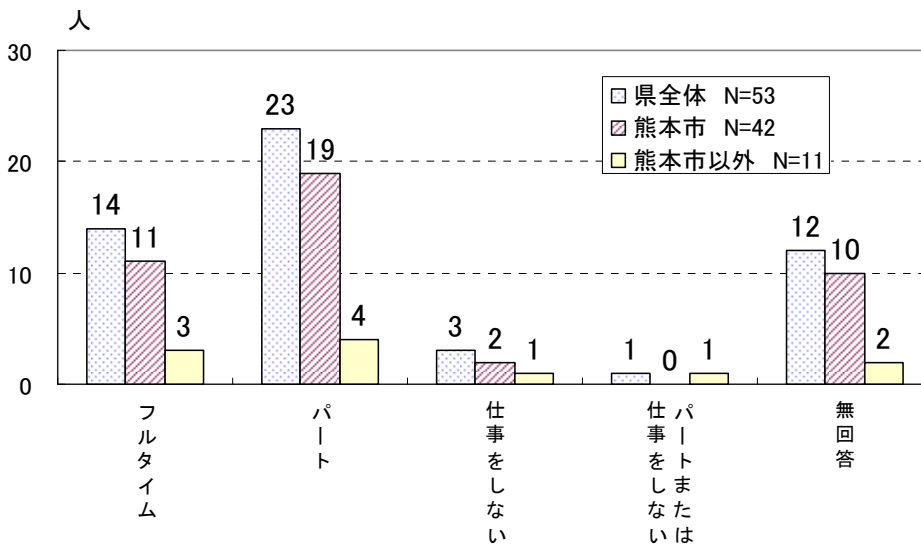
(7) 非常勤・休業等の理由と将来希望する仕事の形態（非常勤・休業または育児休業中の方）

①「非常勤の勤務医」あるいは「休業または休業中」である理由

- ・子育て中(2)
- ・家事との両立が難しい(3)
- ・医局の人事のため
- ・専門医をとるためには医局所属が不可避
- ・私立学校勤務をしているため
- ・のんびり余裕のある生活をしたい
- ・現在大学院生（大学からの派遣で当直業務主体）
- ・退職後の勤務(2)
- ・年齢
- ・特に理由なし

②将来希望する仕事の形態（非常勤の勤務医、休業または休業中の方のみ）

将来希望する仕事の形態は、パートが最も多く、フルタイムでの勤務を希望する人は14人であった。



(パートの理由)

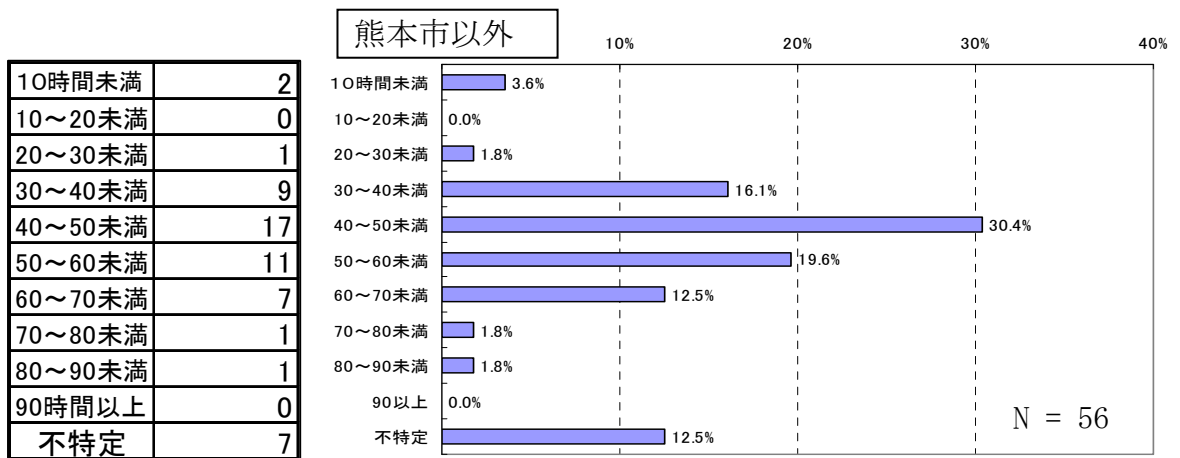
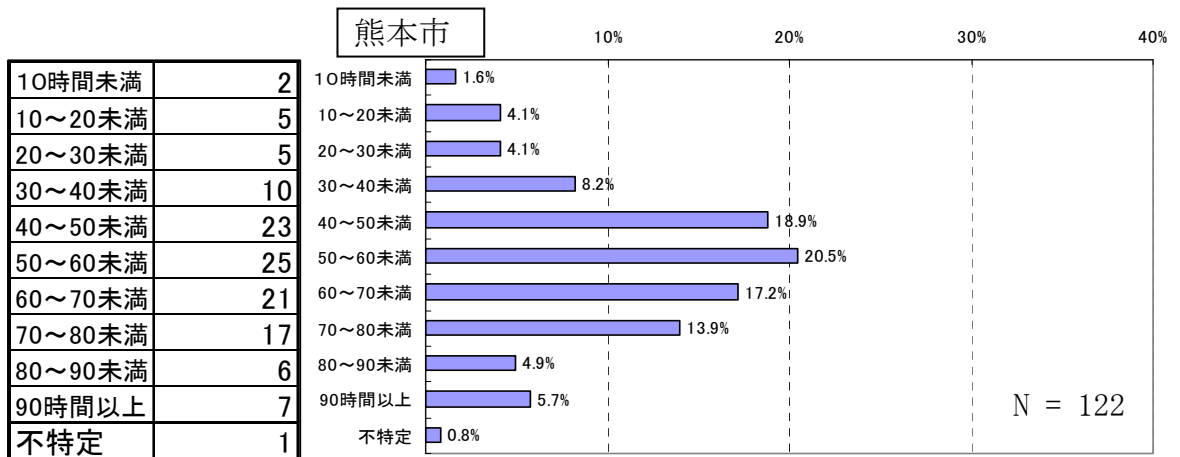
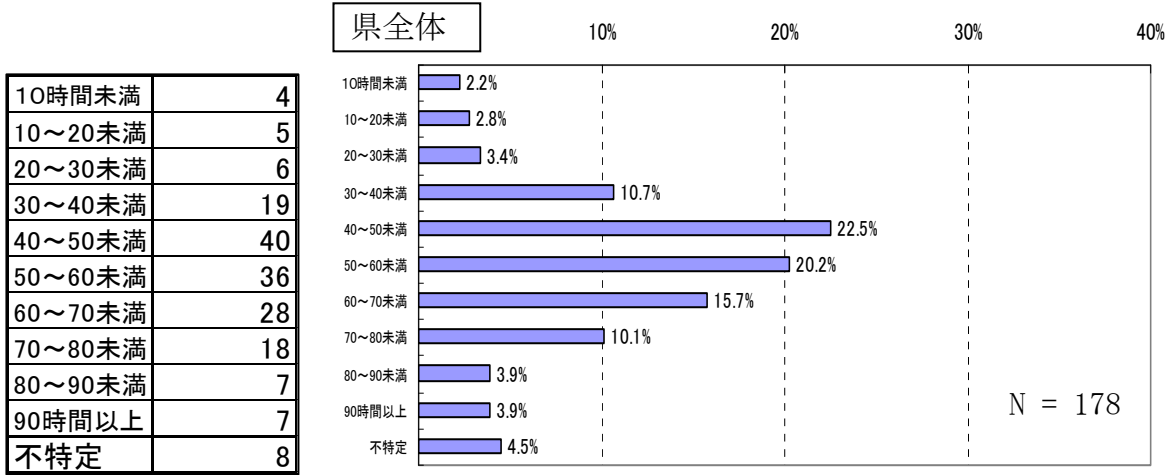
- ・子育てに時間をかけたい(5)
- ・当直等の業務を行うのが困難(5)
- ・家庭と子育てとの両立(2)
- ・家庭と仕事の両立(2)。
- ・疲れない程度
- ・体力の衰えが著しい
- ・高齢で、他にも時間を使いたい
- ・親の介護のため
- ・子どもがもう少し大きくなったら時間と回数を増やしたい
- ・最終的にはフルタイムで働きたい

(仕事をしない理由)

- ・高齢のため(2)
- ・医師を卒業した(1)

(8) 実勤務時間（常勤の勤務医、臨床研修医の方のみ）

1週間あたりの実勤務時間は、40～50時間未満が最も多く、次いで50～60時間未満、60～70時間未満の順であった。中には、90時間以上の方が7人いた。



・勤務先と実勤務時間

勤務先別で、1週間あたりの実勤務時間のピークは、医育機関は60～70時間未満と70～80時間未満、国公立病院と公的病院は50～60時間未満、私的病院は40～50時間未満であった。

県全体

	医育機関	国公立病院	公的病院	私的病院	介護施設	診療所の勤務医	その他	計
10時間未満	1	1		1		1		4
10～20未満	1	1	3					5
20～30未満			1	2	3	2		8
30～40未満	1			11		4	1	17
40～50未満	2	2	5	23	1	5	2	40
50～60未満	2	7	11	11	1	3		35
60～70未満	5	6	6	10				27
70～80未満	5	4	6	1		1		17
80～90未満			4	3				7
90時間以上	2	1	2		1			6
不特定							1	1
計	19	22	38	62	6	16	4	167

熊本市

	医育機関	国公立病院	公的病院	私的病院	介護施設	診療所の勤務医	その他	計
10時間未満	1			1				2
10～20未満	1	1	3					5
20～30未満			1	2	3	1		7
30～40未満	1			4		3		8
40～50未満	2		2	13		4	2	23
50～60未満	2	2	10	8	1	1		24
60～70未満	5	2	5	8				20
70～80未満	5	4	6	1				16
80～90未満			4	2				6
90時間以上	2	1	2		1			6
不特定							1	1
計	19	10	33	39	5	9	3	118

熊本市以外

	医育機関	国公立病院	公的病院	私的病院	介護施設	診療所の勤務医	その他	計
10時間未満		1				1		2
10～20未満								0
20～30未満						1		1
30～40未満				7		1	1	9
40～50未満		2	3	10	1	1		17
50～60未満		5	1	3		2		11
60～70未満		4	1	2				7
70～80未満						1		1
80～90未満						1		1
90時間以上								0
不特定								
計	0	12	5	22	1	8	1	49
平均時間	0	50.7	52.2	43.8	42.0	39.7	35.0	45.5

(参考) 熊本市以外において、実勤務時間の平均は45.5時間であり、公的病院勤務の人の実勤務時間が平均時間52.2時間と最も長く、ついで国公立病院50.7時間、私的病院診療所43.8時間の順であった。

・年齢と実勤務時間

年代別で実勤務時間のピークは、20歳代が週平均60～70時間未満と70～80時間未満、30歳代は50～60時間未満、40歳代は30～70時間の間、50歳代は40～50時間未満であった。

県全体

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
10時間未満		1	1			2	4
10～20未満	2	3					5
20～30未満		1	3			2	6
30～40未満	1	7	5	3	2	1	19
40～50未満	2	16	8	10	2	2	40
50～60未満	7	17	7	5			36
60～70未満	8	9	9		2		28
70～80未満	8	6	2	2			18
80～90未満	7						7
90時間以上	4	3					7
不特定	1	4	2	1			8
計	40	67	37	21	6	7	178

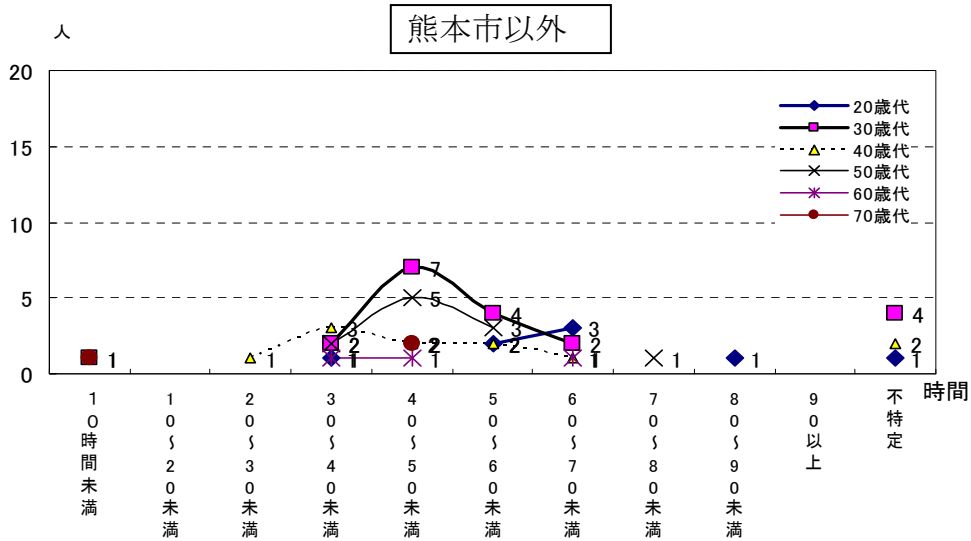
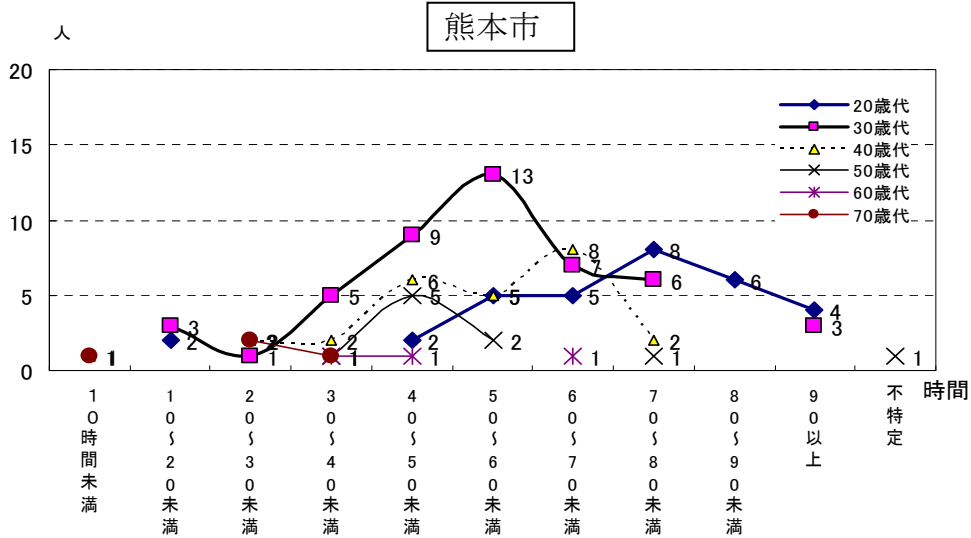
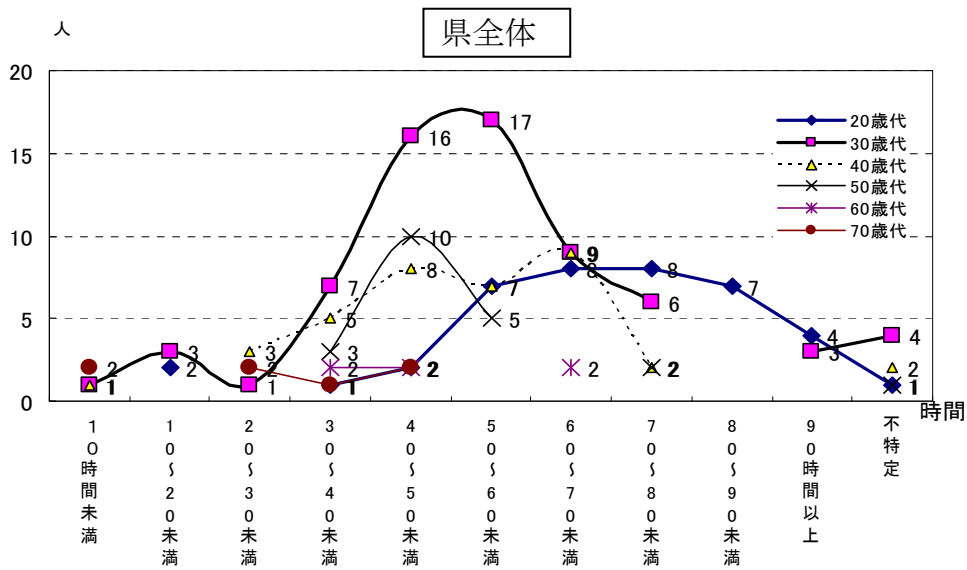
熊本市

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
10時間未満			1			1	2
10～20未満	2	3					5
20～30未満		1	2			2	5
30～40未満		5	2	1	1	1	10
40～50未満	2	9	6	5	1		23
50～60未満	5	13	5	2			25
60～70未満	5	7	8		1		21
70～80未満	8	6	2	1			17
80～90未満	6						6
90以上	4	3					7
不特定				1			1
計	32	47	26	10	3	4	122

熊本市以外

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	計
10時間未満		1				1	2
10～20未満							0
20～30未満			1				1
30～40未満	1	2	3	2	1		9
40～50未満		7	2	5	1	2	17
50～60未満	2	4	2	3			11
60～70未満	3	2	1		1		7
70～80未満				1			1
80～90未満	1						1
90時間以上							
不特定	1	4	2				7
計	8	20	11	11	3	3	56
平均時間	58.6	44.1	43.6	45.7	45.3	28	45.5

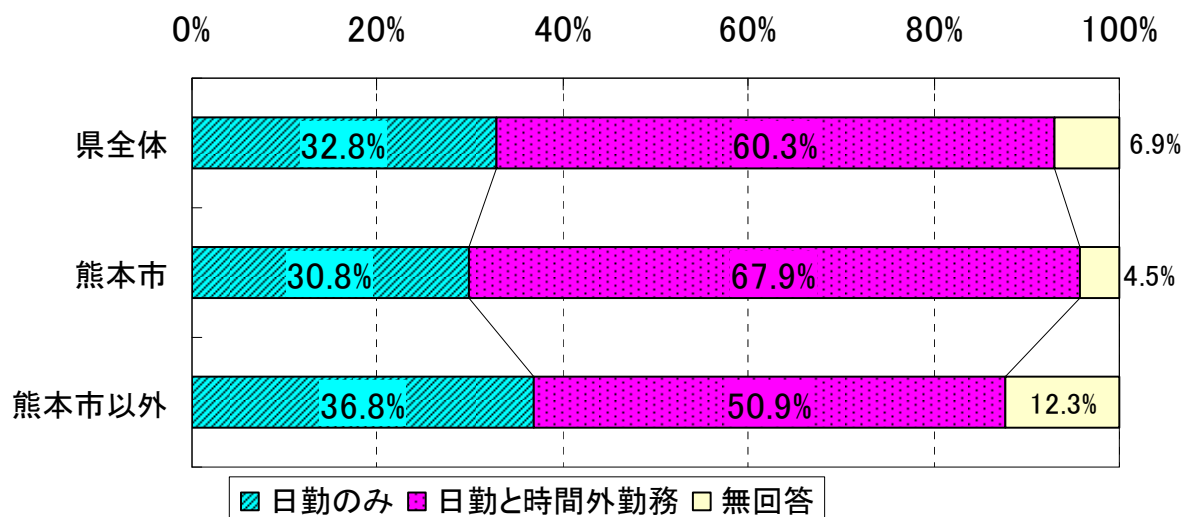
熊本市以外において、20歳代が平均58.6時間と最も長く、次いで50歳代45.7時間、60歳代45.3時間、40歳代43.6時間の順であった。



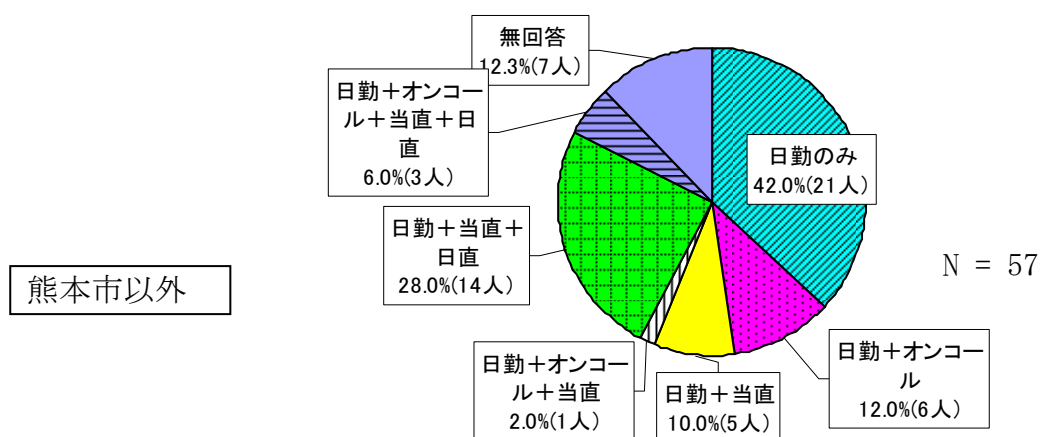
(9) 勤務状況（常勤の勤務医の方のみ）

日勤以外に時間外勤務（オンコール、当直、宅直、日直）をしている人は60.3%であった。

	県全体 N=174	熊本市 N=117	熊本市以外 N=57
日勤のみ	57	36	21
日勤と時間外勤務	105	76	29
無回答	12	5	7



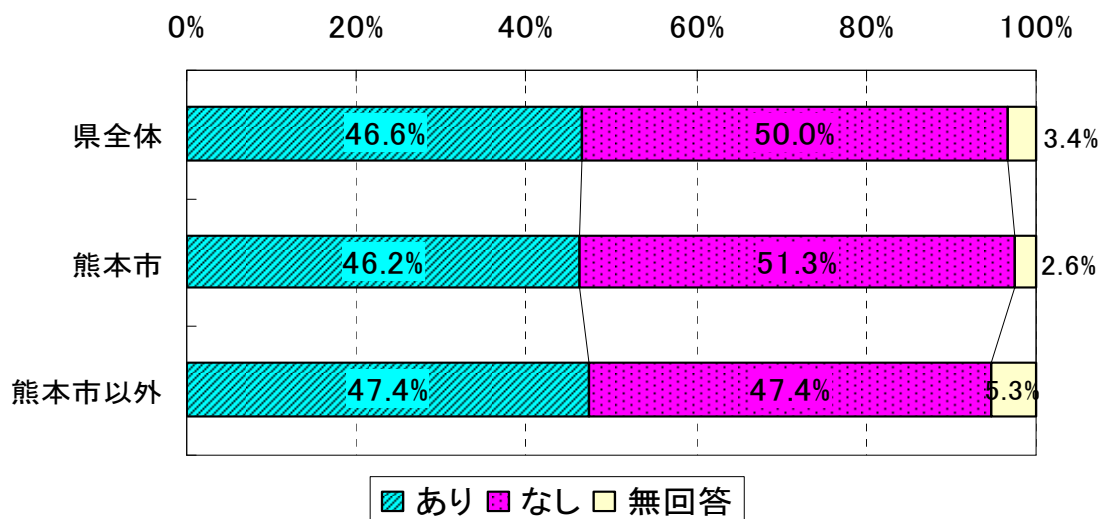
(参考) 時間外勤務の内訳



(10) 当直の有無（常勤の勤務医の方のみ）

当直をしている人は、46.6%であった。

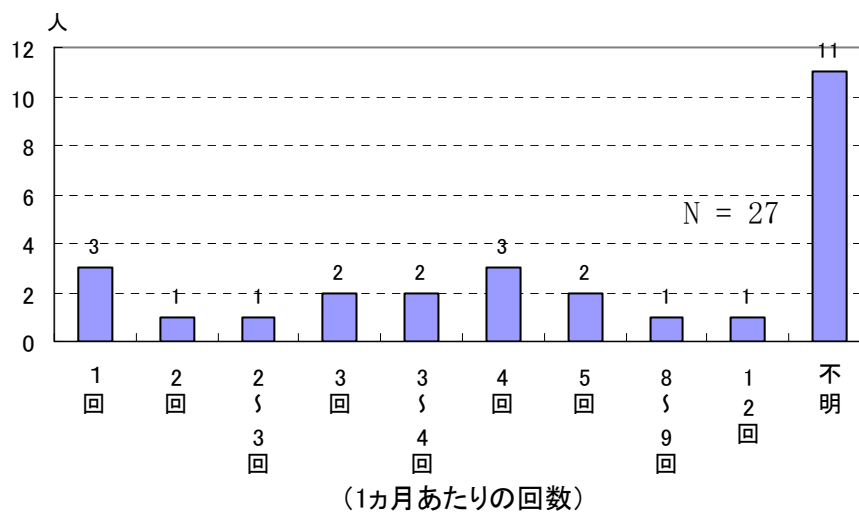
	県全体 N=174	熊本市 N=117	熊本市以外 N=57
あり	81	54	27
なし	87	60	27
無回答	6	3	3



(参考) 当直の回数

熊本市以外において、当直の回数は月平均 3.9 回であり、中には週 2 回以上の人もいます。

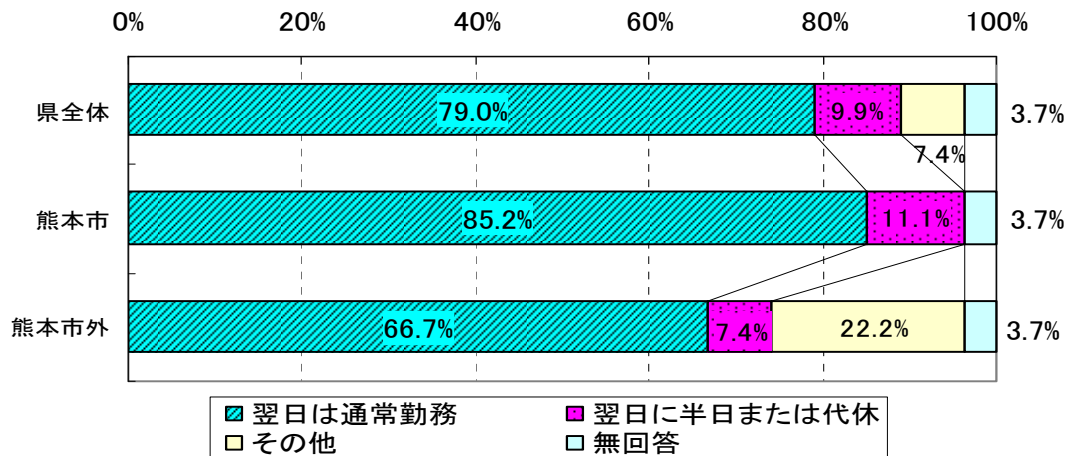
熊本市以外



(11) 当直の翌日の勤務状況

当直の翌日通常勤務をしている人は79.0%であり、翌日に半日勤務や代休がある人はわずか9.9%であった。

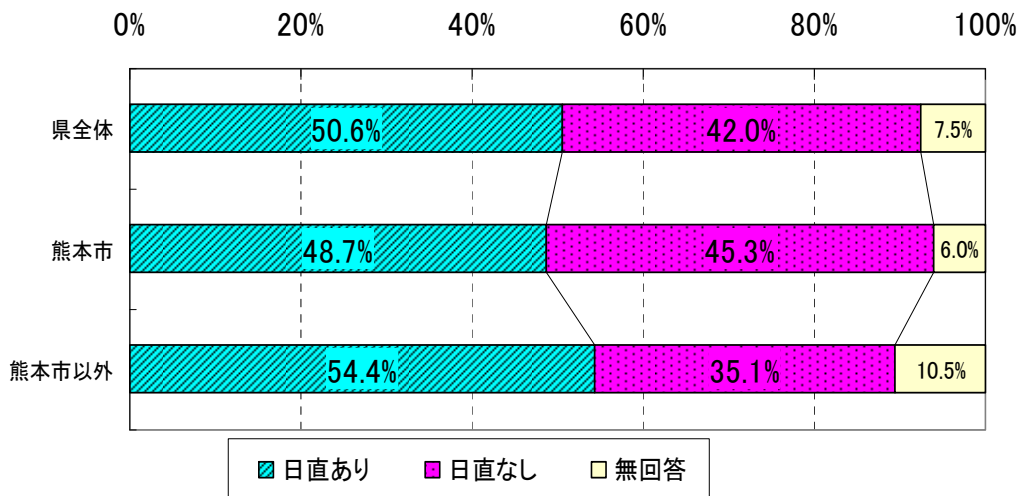
	県全体 N=81	熊本市 N=54	熊本市外 N=27
翌日は通常勤務	64	46	18
翌日に半日または代休	8	6	2
その他	6	0	6
無回答	3	2	1



(12) 休日の日直の有無

休日の日直を行っている人は、50.6%であった。

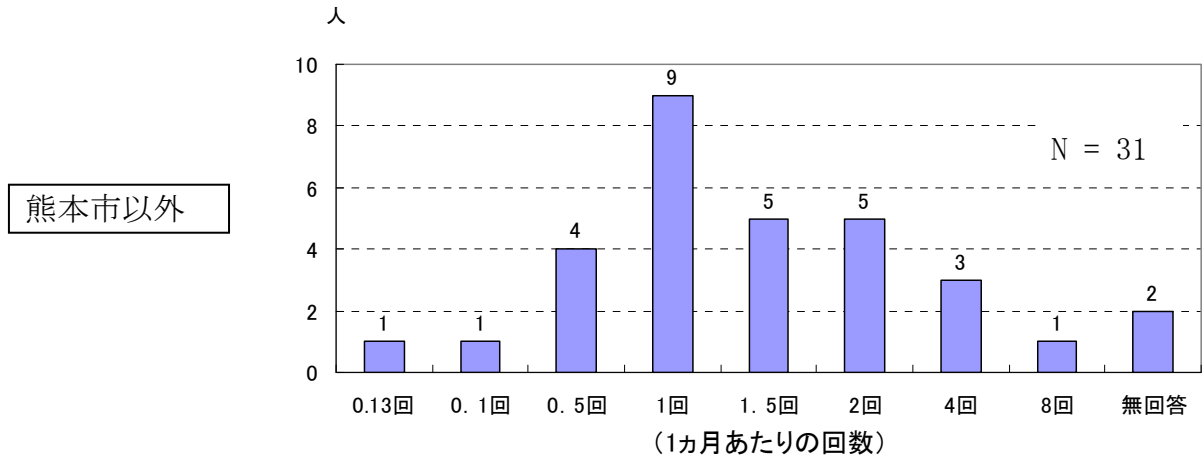
	県全体 N=174	熊本市 N=117	熊本市以外 N=57
日直あり	88	57	31
日直なし	73	53	20
無回答	13	7	6



(参考)

(13) 休日日直の回数 (休日日直のある方のみ)

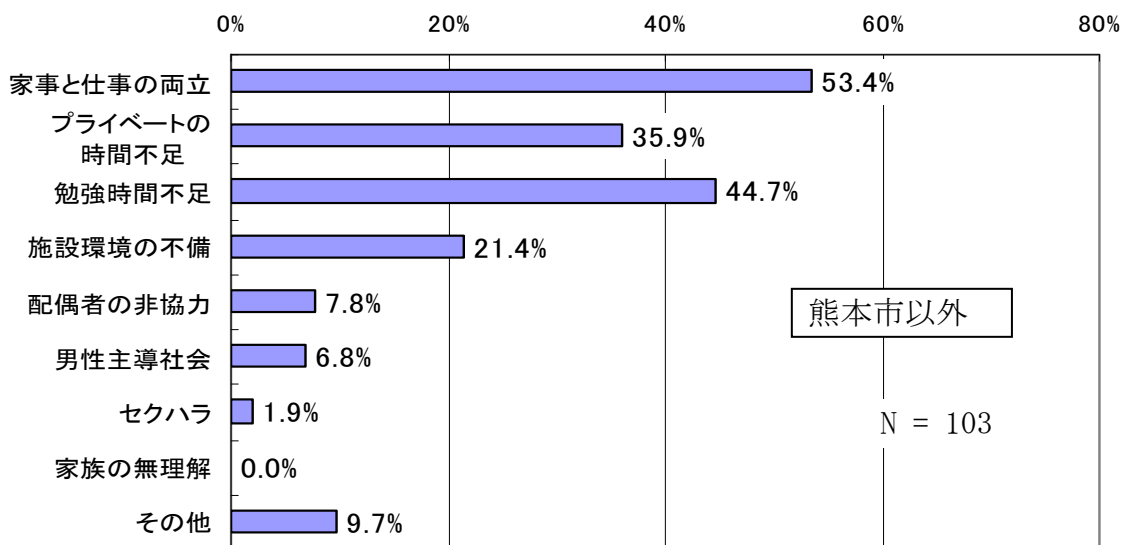
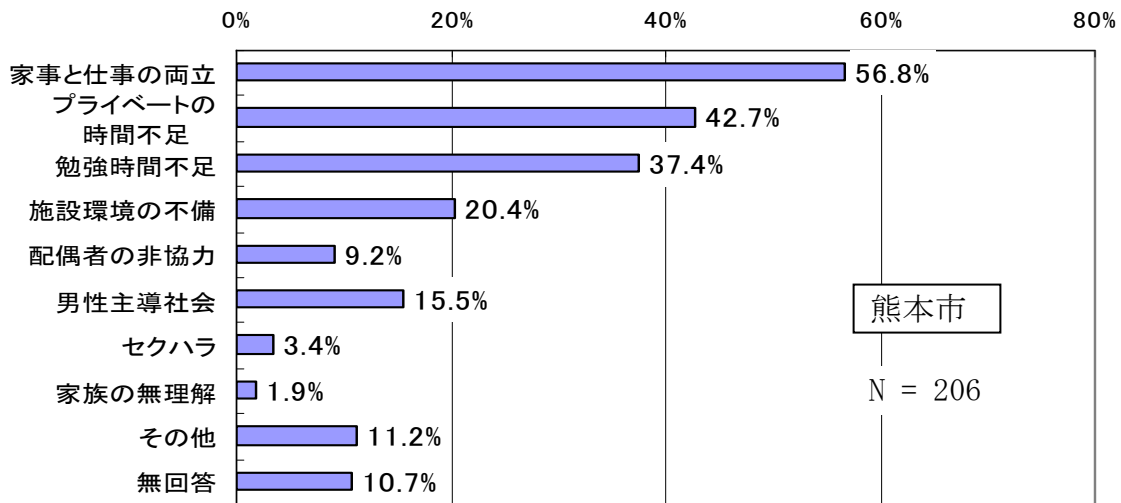
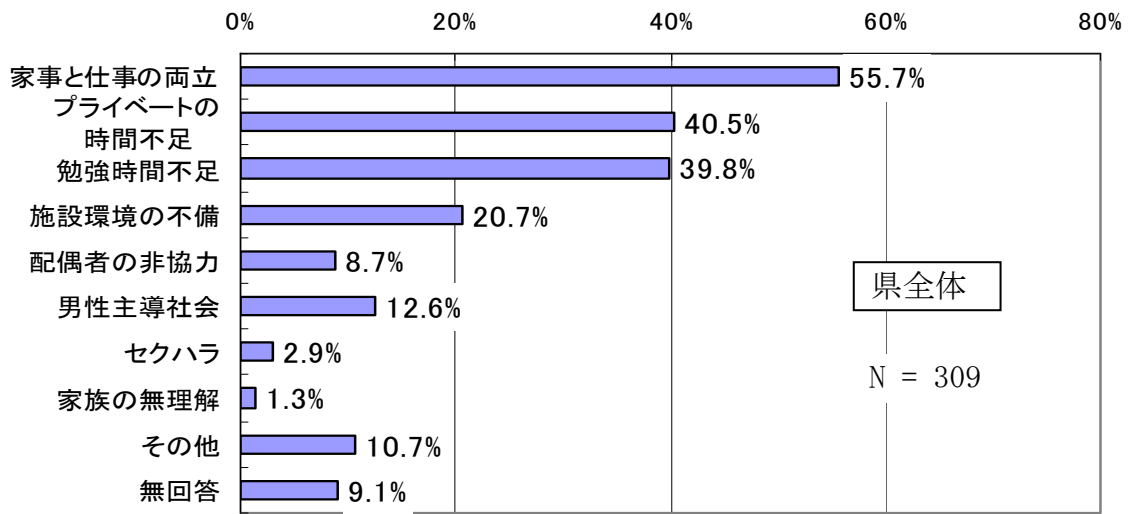
日直の回数は、1月あたり平均1.7回行っている。



(14) 女性医師としての悩み (複数回答可)

半数以上の人、「家事と仕事の両立」について悩みをもっており、次いでプライベートや勉強時間の不足をあげている。

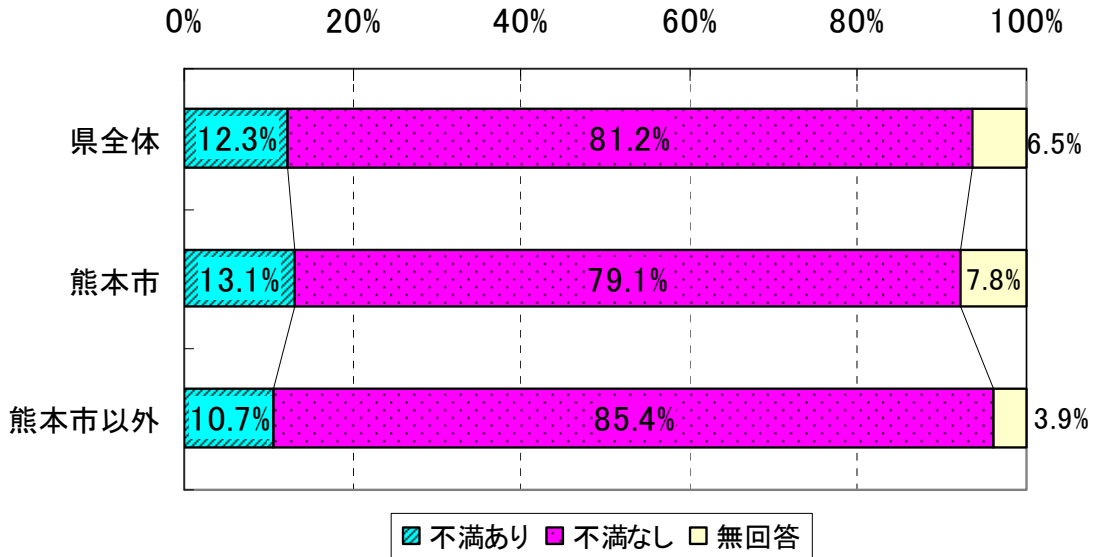
	家事と仕事の両立	プライベートの時間不足	勉強時間不足	施設環境の不備	配偶者の非協力	男性主導社会	セクハラ	家族の無理解	その他	無回答
県全体	172	125	123	64	27	39	9	4	33	28
熊本市	117	88	77	42	19	32	7	4	23	22
熊本市以外	55	37	46	22	8	7	2	0	10	6



(15) 同性（女性）の医師に対する不満

同性医師に対して、不満をもっている人は、12.3%であった。

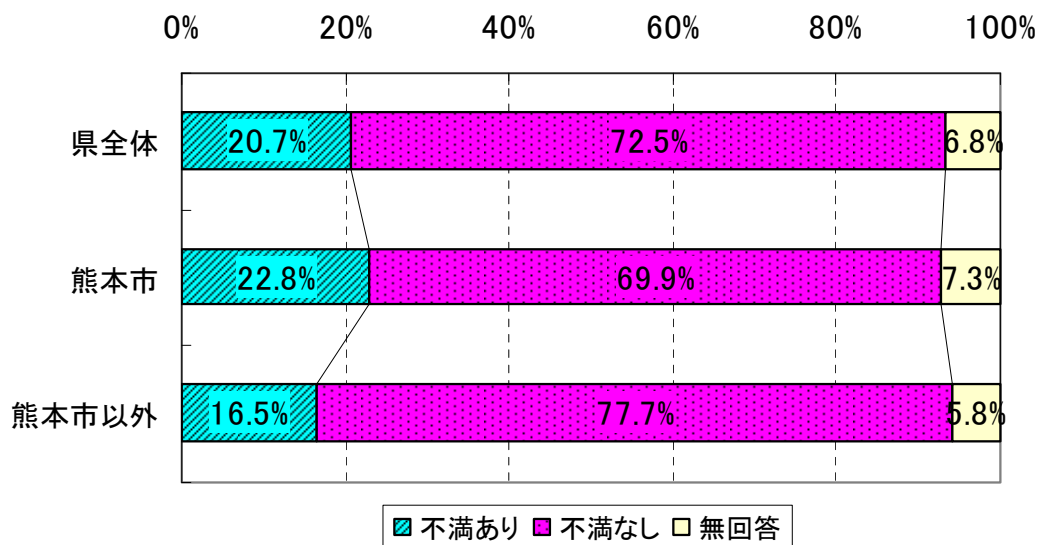
〈同性〉	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
不満あり	38	27	11
不満なし	251	163	88
無回答	20	16	4



(16) 男性の医師に対する不満

男性医師に対して、不満をもっている人は、20.7%であった。

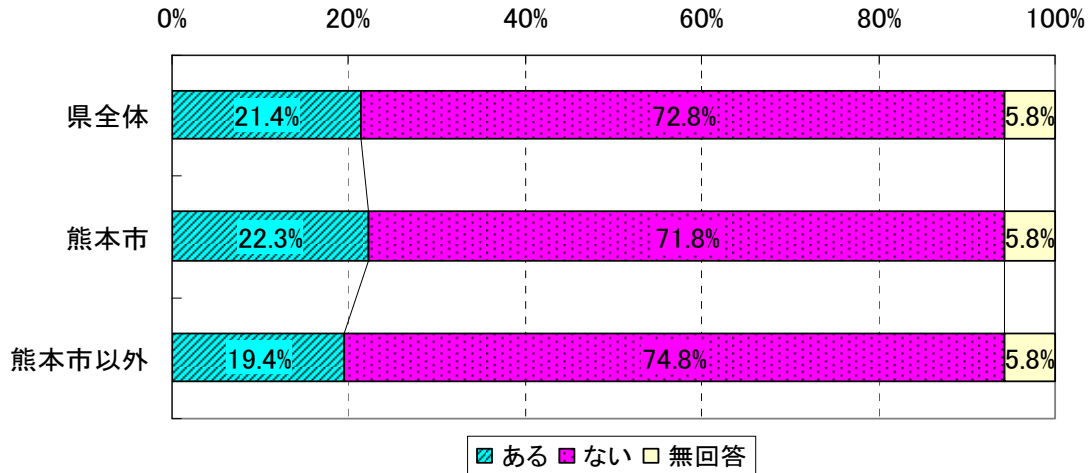
〈男性〉	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
不満あり	64	47	17
不満なし	224	144	80
無回答	21	15	6



(17) 院内保育

「院内保育がある」と答えた人は21.4%であった。

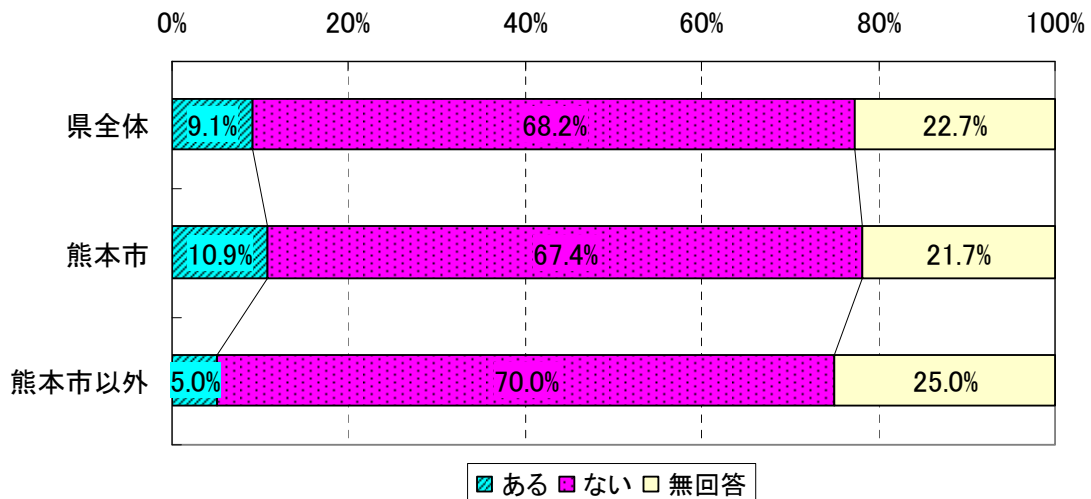
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
ある	66	46	20
ない	225	148	77
無回答	18	12	6



(18) 病児保育

院内保育があると答えた人のうち、「病児保育がある」と答えた人は6人であった。

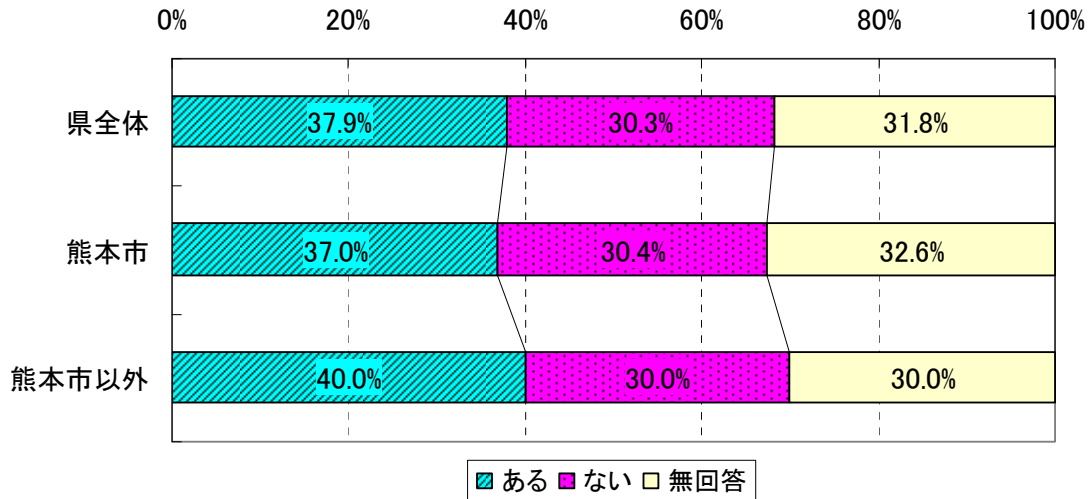
	県全体 N=66	熊本市 N=46	熊本市以外 N=20
ある	6	5	1
ない	45	31	14
無回答	15	10	5



(19) 時間外保育

院内保育があると答えた人のうち、「時間外保育をある」と答えた人は、37.9%であった。

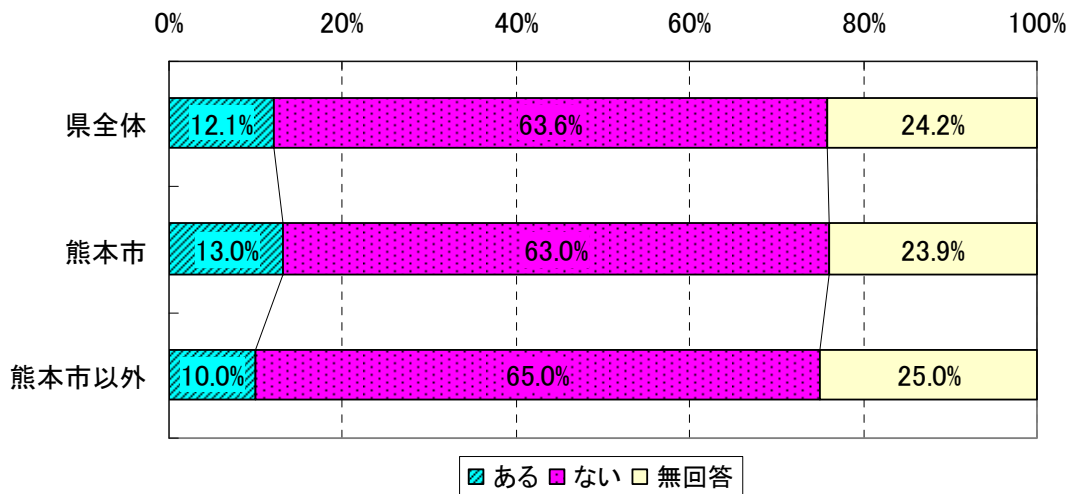
	県全体 N=66	熊本市 N=46	熊本市以外 N=20
ある	25	17	8
ない	20	14	6
無回答	21	15	6



(20) 24 時間保育

院内保育があると答えた人のうち、「24 時間保育をある」と答えた人は、12.1%であった。

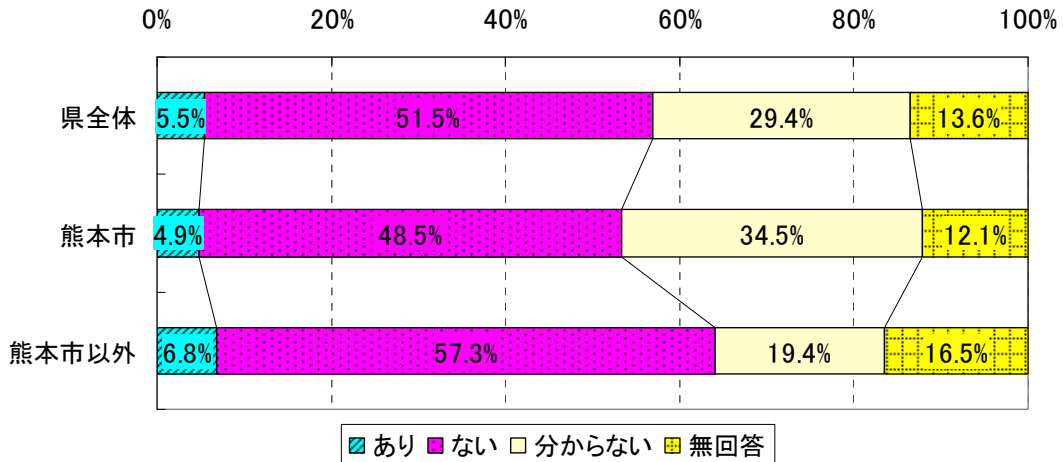
	県全体 N=66	熊本市 N=46	熊本市以外 N=20
ある	8	6	2
ない	42	29	13
無回答	16	11	5



(21) 代診医派遣制度

「代診医派遣制度がある」と答えた人は5.5%、「ない」は51.5%、「分からない」と答えた人は29.4%であった。

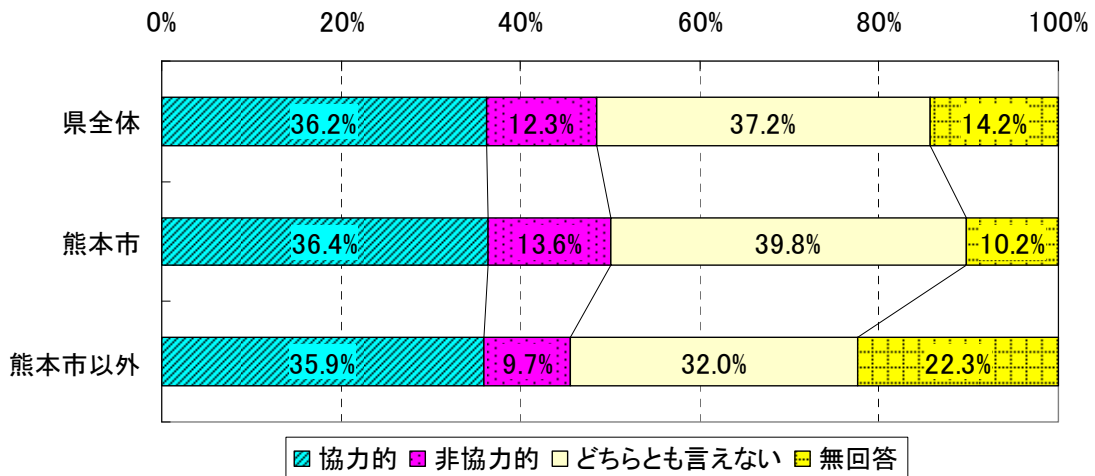
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
あり	17	10	7
ない	159	100	59
分からない	91	71	20
無回答	42	25	17



(22) 子育てに協力的な職場

「子育てに対して協力的な職場」と答えた人は36.2%、「非協力的」が12.3%、「どちらとも言えない」が37.2%であった。

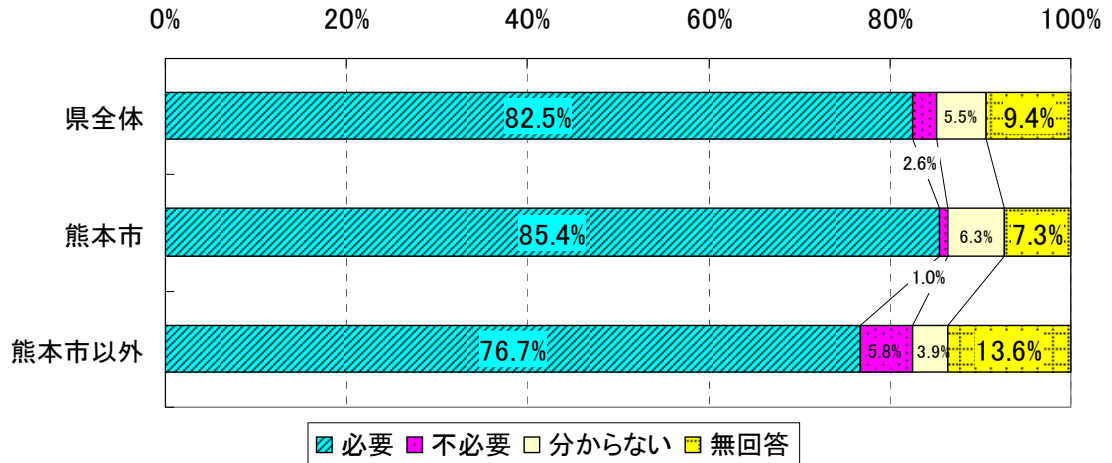
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
協力的	112	75	37
非協力的	38	28	10
どちらとも言えない	115	82	33
無回答	44	21	23



(23) 育児中の勤務時間の軽減について

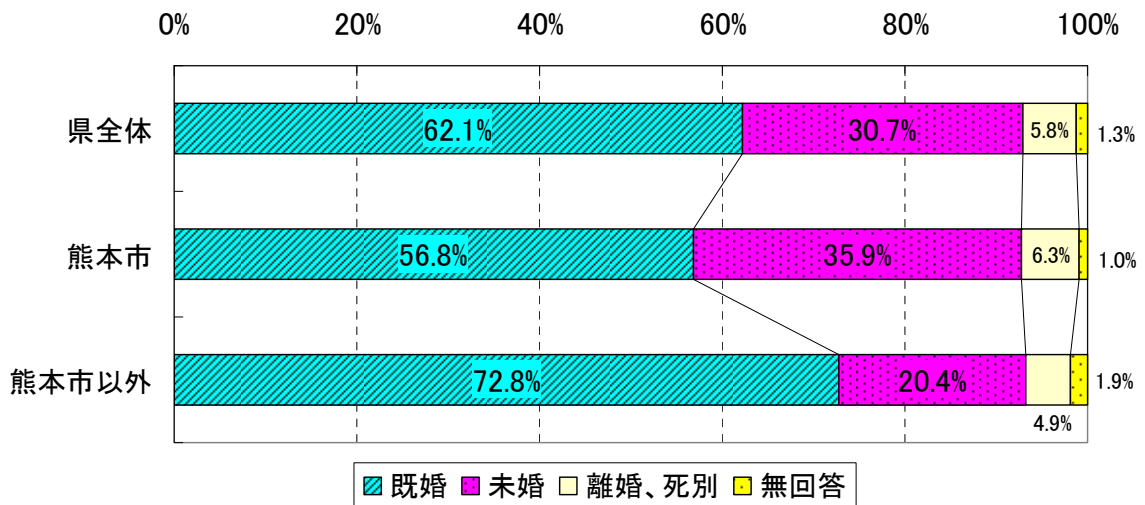
「勤務時間の軽減が必要」と答えた人は82.5%であった。

	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
必要	255	176	79
不必要	8	2	6
分からない	17	13	4
無回答	29	15	14



(24) 婚姻の有無

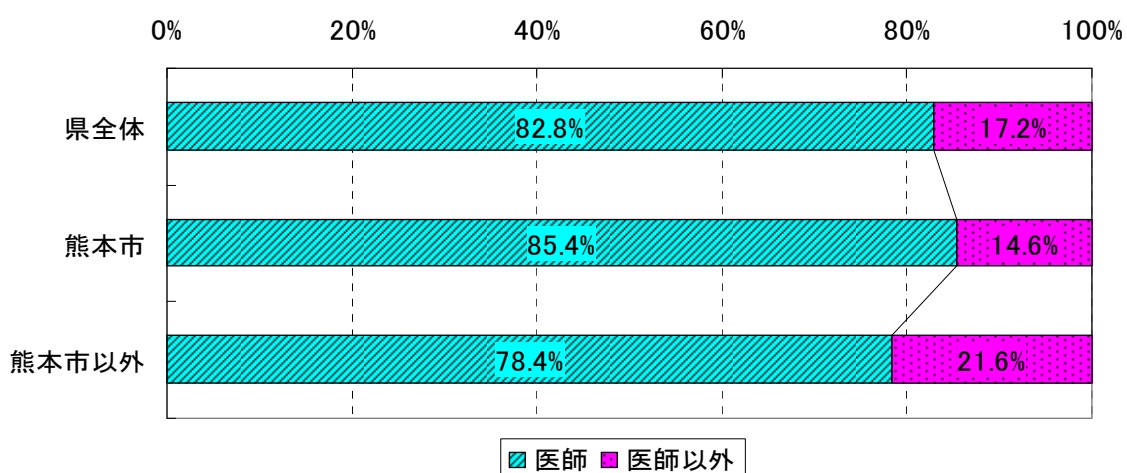
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
既婚	192	117	75
未婚	95	74	21
離婚、死別	18	13	5
無回答	4	2	2



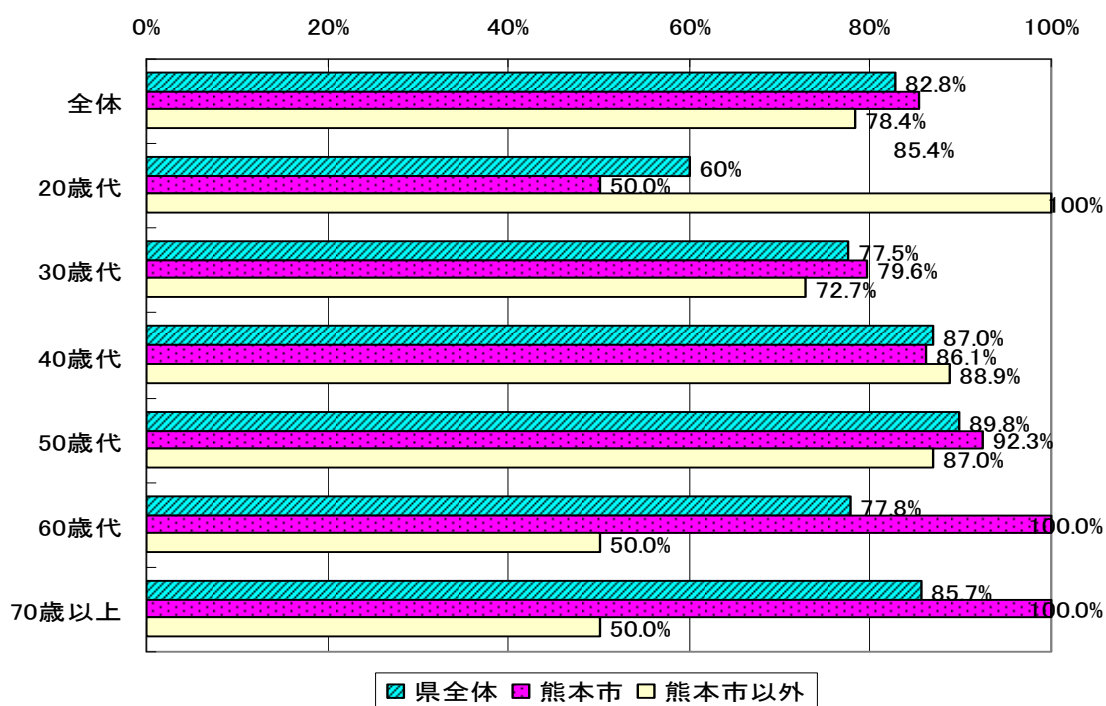
(25) 配偶者の職種

配偶者が同業者の医師である人は、82.8%であった。

	県全体 N=204		熊本市 N=130		熊本市以外N=74	
	医師	医師以外	医師	医師以外	医師	医師以外
20歳代	3	2	2	2	1	0
30歳代	55	16	39	10	16	6
40歳代	47	7	31	5	16	2
50歳代	44	5	24	2	20	3
60歳代	14	4	10	0	4	4
70歳以上	6	1	5	0	1	1
計	169	35	111	19	58	16



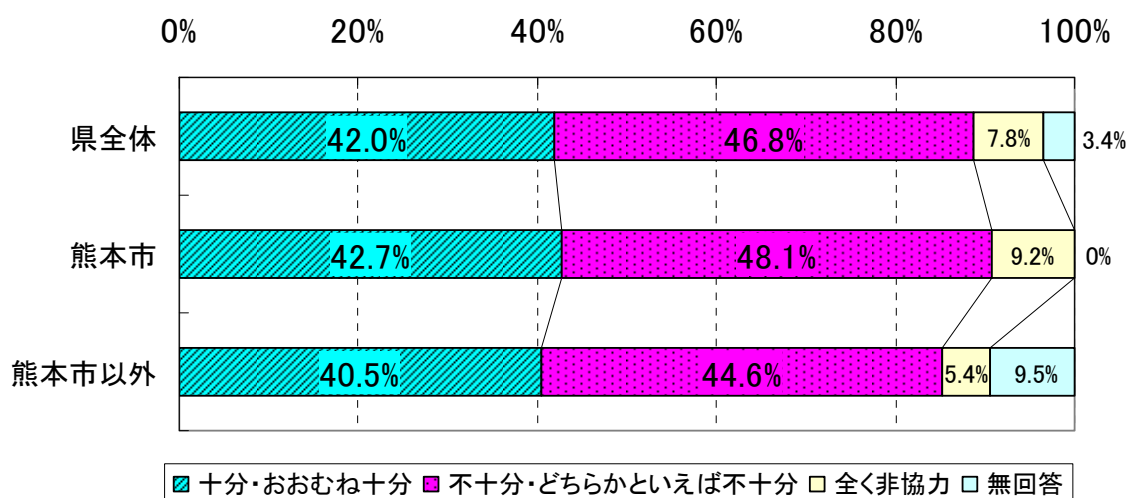
・ 配偶者が医師である割合（年代別）



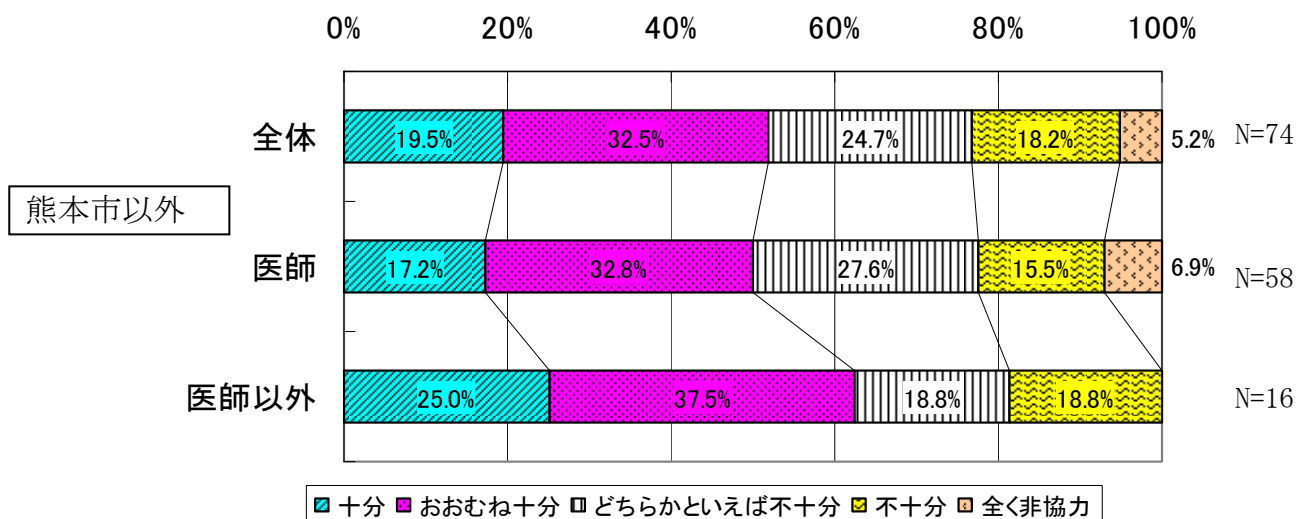
(26) 配偶者の家事や育児への協力状況

「十分」及び「おおむね十分」と答えた人は42.0%であったが、「不十分」及び「どちらかといえば不十分」と答えた人が46.8%、中には、「全く非協力」と答えた者が7.8%であった。

	県全体 N=205	熊本市 N=131	熊本市以外 N=74
十分・おおむね十分	86	56	30
不十分・どちらかといえば不十分	96	63	33
全く非協力	16	12	4
無回答	7	0	7



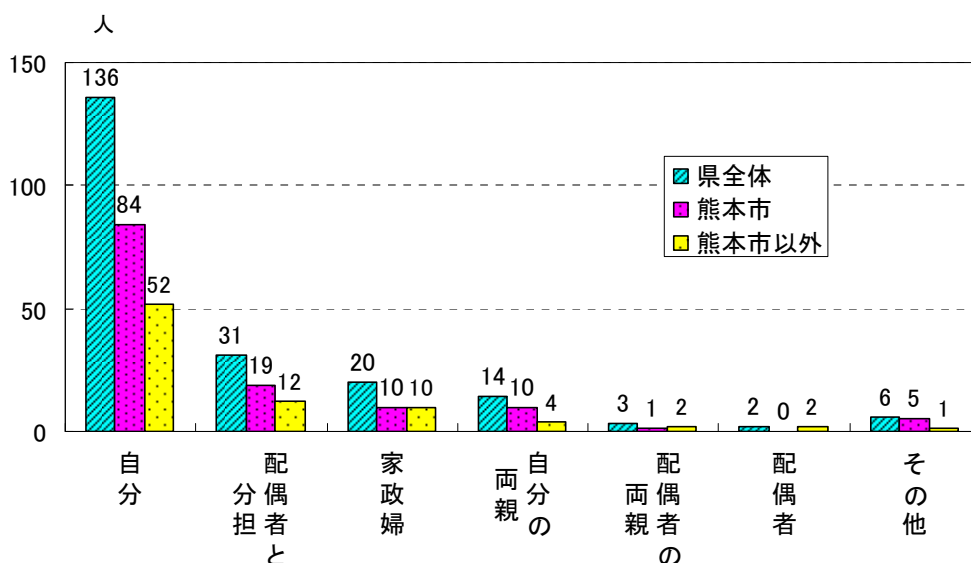
(参考) 配偶者の育児への協力状況(職種別)



(27) 主に家事する人（配偶者のある方のみ）（複数回答）

主に家事をしている人は、「自分（女性医師）」が最も多く、ついで「配偶者と分担」、
「家政婦」の順になっている。

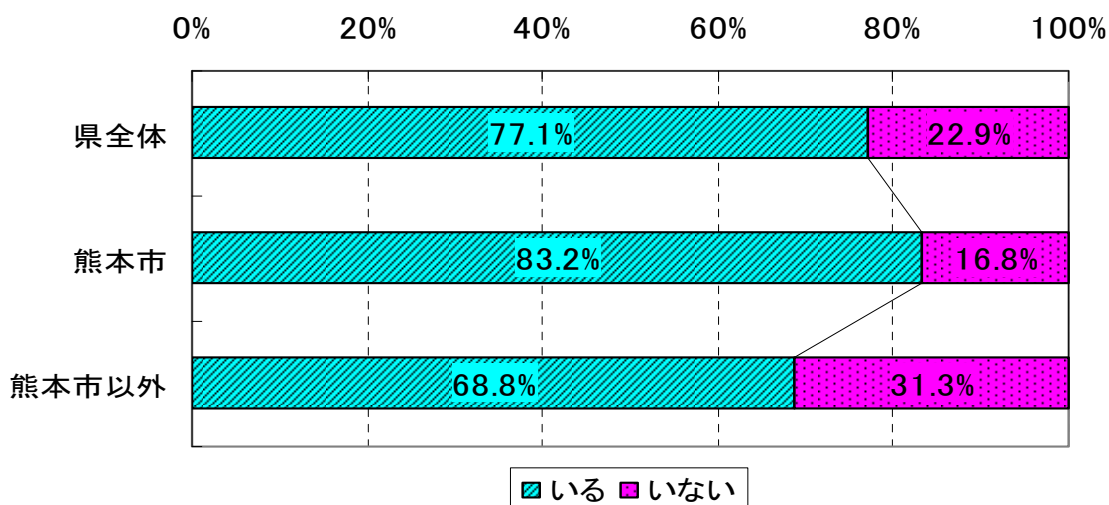
	自分	配偶者と 分担	家政婦	自分の 両親	配偶者の 両親	配偶者	その他
県全体	136	31	20	14	3	2	6
熊本市	84	19	10	10	1	0	5
熊本市以外	52	12	10	4	2	2	1



(28) 子どもの有無及び人数

子どもがいると答えた人は
77.1%であった。

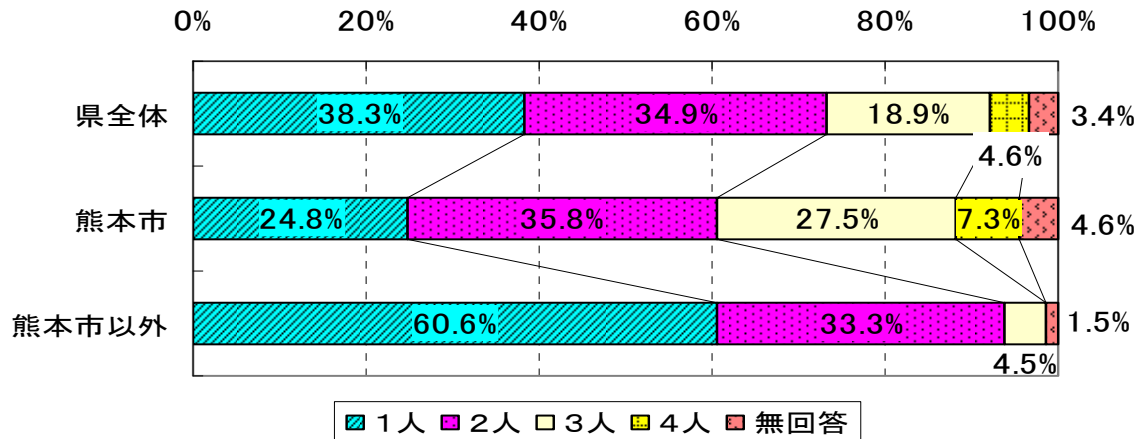
	県全体 N=227	熊本市 N=131	熊本市以外 N=96
いる	175	109	66
いない	52	22	30



・子どもの数

子どもの数は、1人が38.3%、2人が34.9%、3人が18.9%であった。

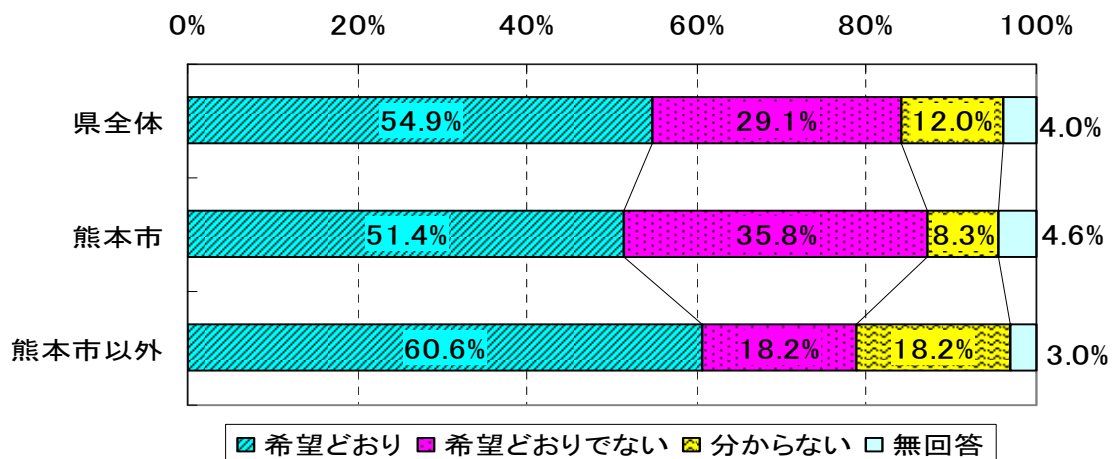
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
1人	67	27	40
2人	61	39	22
3人	33	30	3
4人	8	8	0
無回答	6	5	1



(29) 子どもの数と希望の子どもの数のマッチング (子どもがいると答えた方のみ)

子どもの数が希望どおりであったと答えた人は54.9%、希望どおりでないでないと答えて人は29.1%であった。

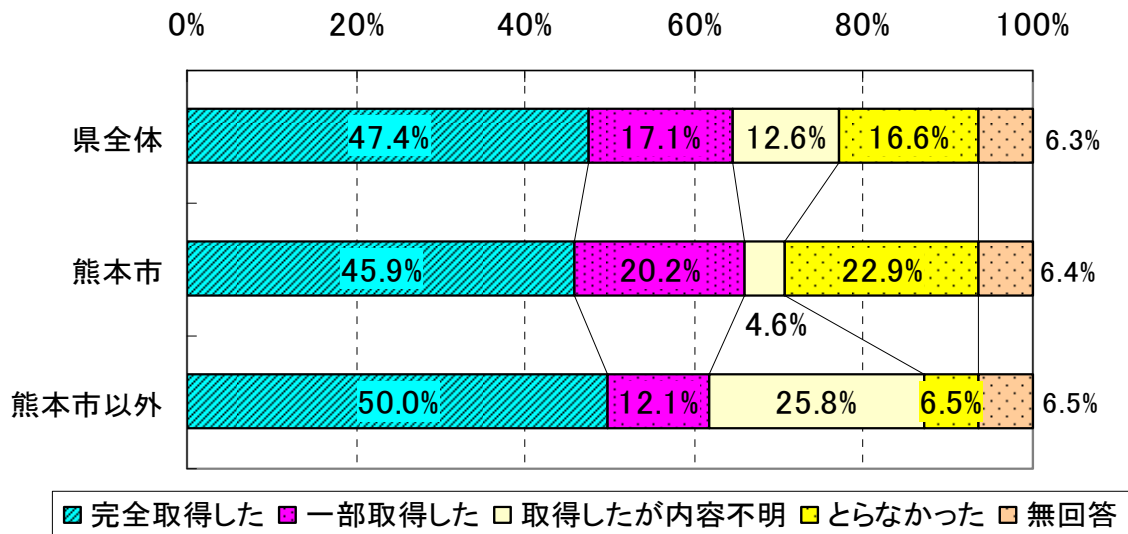
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
希望どおり	96	56	40
希望どおりでない	55	39	12
分からない	25	9	12
無回答	7	5	2



(30) 産前産後休暇の取得状況および取得内容

産前産後休暇を完全に取り替えている人は 47.4%であり、一部しか取得できなかった人 17.1%、取得したが完全にとれたかどうかわからない人 12.6%、取得していない人 16.6%であった。

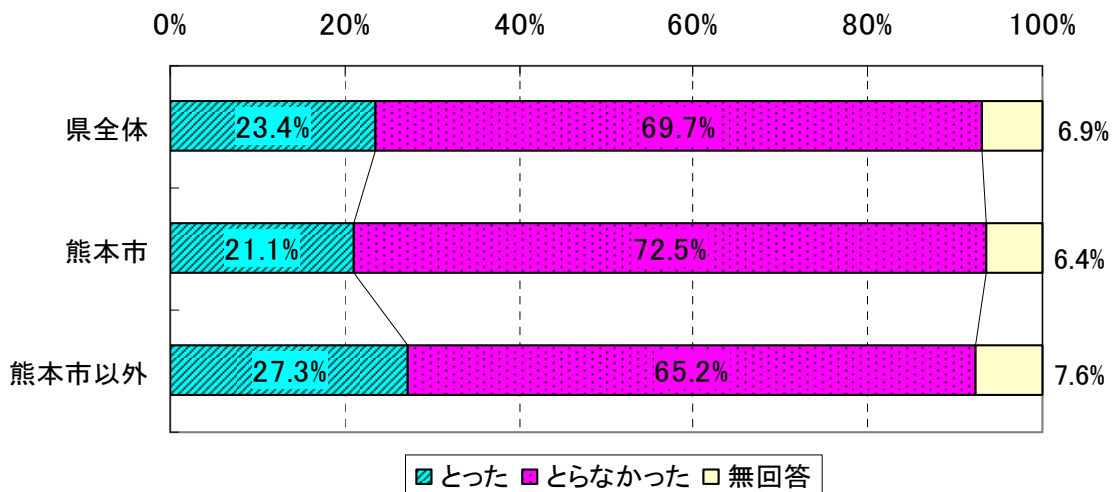
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
完全取得した	83	50	33
一部取得した	30	22	8
取得したが内容不明	21	5	17
とらなかった	30	25	4
無回答	11	7	4



(31) 育児休業の取得状況（子供のいると答えた方のみ）

育児休業を取得した人は 23.4%であり、69.7%の人が取得していない。

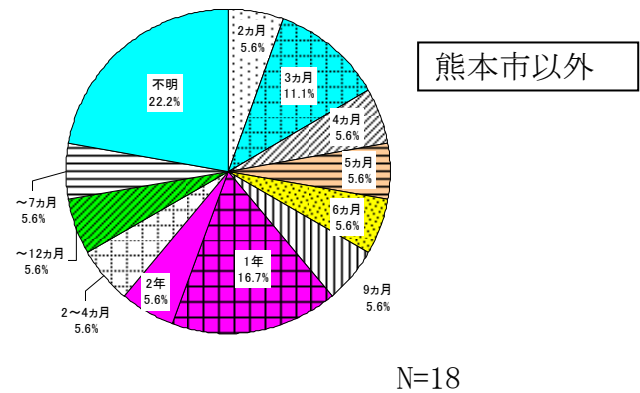
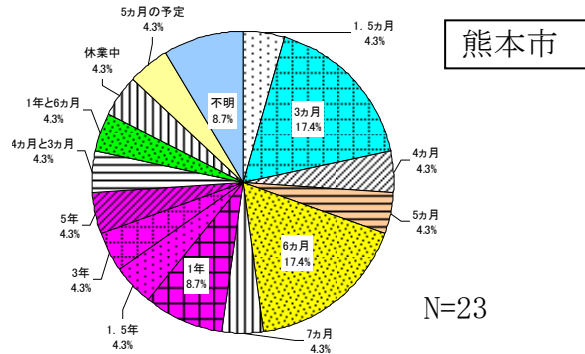
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
とった	41	23	18
とらなかった	122	79	43
無回答	12	7	5



※育児休業期間

1年以上の休みをとっている人は、全体の22.0%であった。

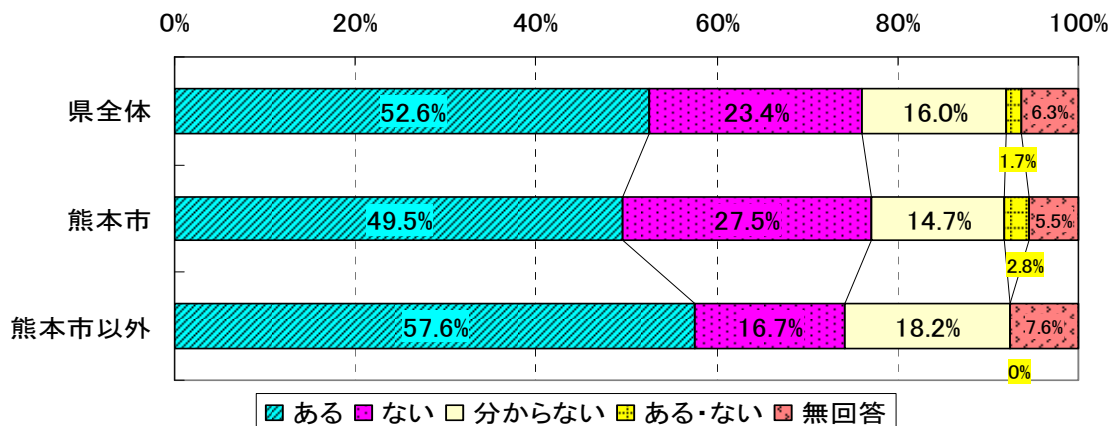
	県全体 N=41	熊本市 N=23	熊本市以外 N=18
1. 5カ月	1	1	
2カ月	1		1
3カ月	6	4	2
4カ月	2	1	1
5カ月	2	1	1
6カ月	5	4	1
7カ月	1	1	
9カ月	1		1
1年	5	2	3
1. 5年	1	1	
2年	1		1
3年	1	1	
5年	1	1	
2～4カ月	1		1
3～12カ月	1		1
4～7カ月	1		1
4カ月と3カ月	1	1	
1年と6カ月	1	1	
休業中	1	1	
5カ月の予定	1	1	
不明	6	2	4



(32) 産前産後休暇中の身分保障

産前産後休暇の身分保障があると答えた人は52.6%であったが、中には、そのような制度自体を「分からない」と答えた人が16.0%であった。

	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
ある	92	54	38
ない	41	30	11
分からない	28	16	12
ある・ない	3	3	0

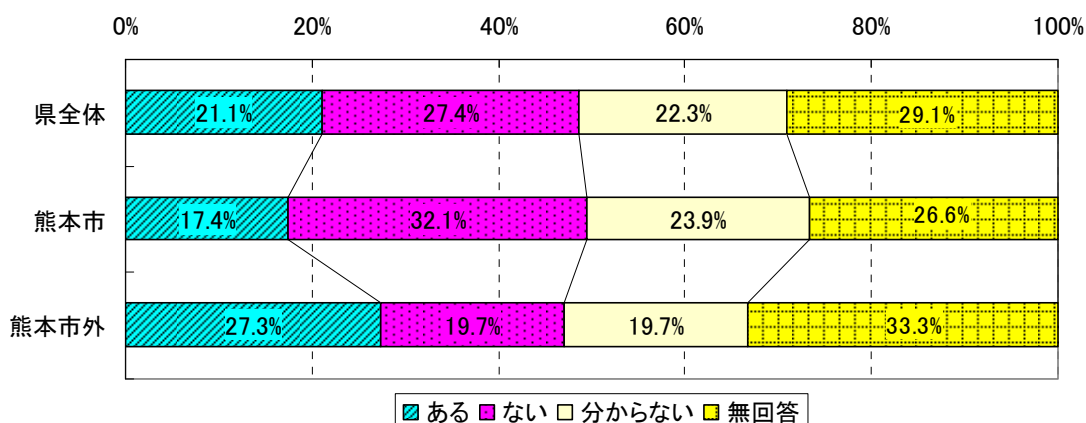


※「ある・ない」:
複数の子どもがいる場合、子どものよって身分保障の状況が異なった場合

(33) 育児休業中の身分保障

育児休業中の身分保障があると答えた人は 21.1%であり、また、そのような制度自体を「分からない」と答えた人が 22.3%であった。

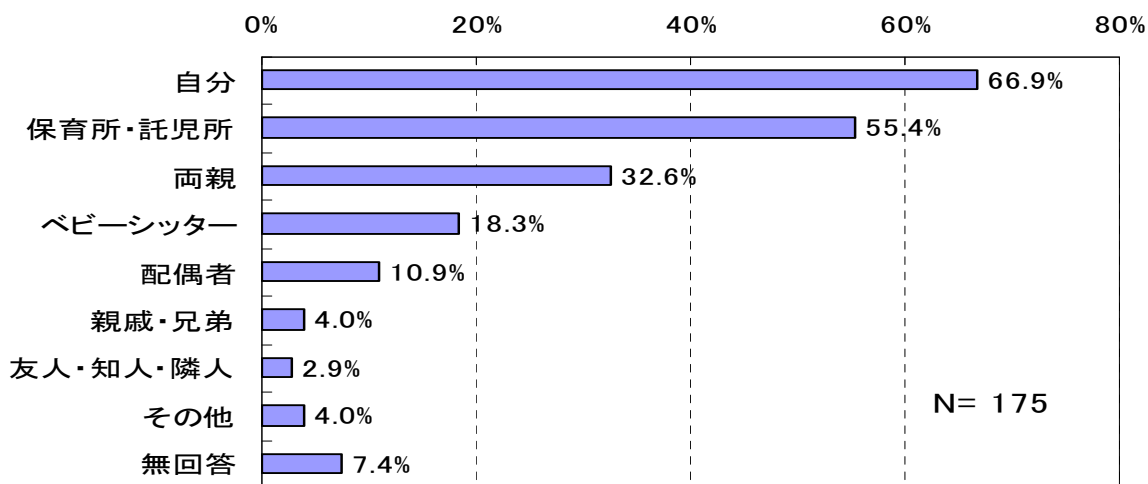
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
ある	37	19	18
ない	48	35	13
分からない	39	26	13
無回答	51	29	22



(34) 子どもの主な育児者（複数回答可）

子どもの主な育児者は、女性医師本人が最も多く、次いで、保育所・託児所、両親の順となっている。

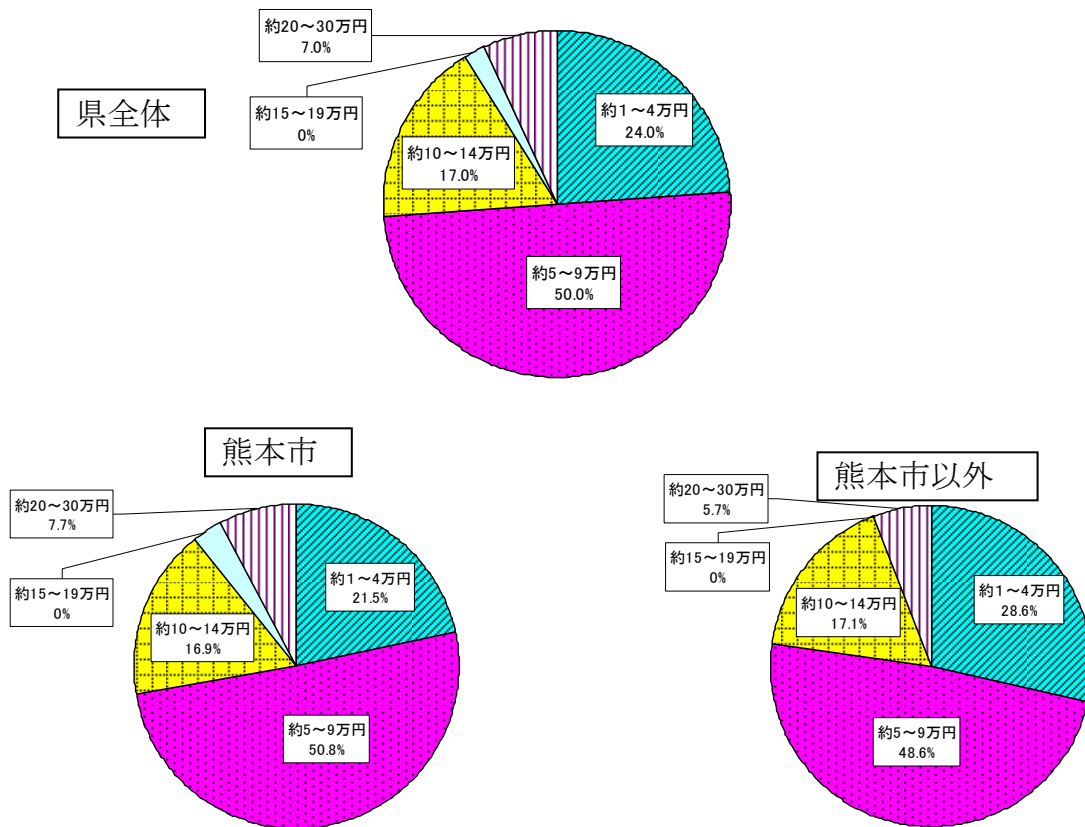
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
自分	117	74	43
保育所・託児所	97	63	34
両親	58	38	19
ベビーシッター	32	23	9
配偶者	19	13	6
親戚・兄弟	7	4	3
友人・知人・隣人	5	3	2
その他	7	5	2
無回答	13	5	8



(35) 保育所やベビーシッターに支払う金額(1ヵ月あたり)

約半数の人が 5～9 万円を保育料等として支払っているが、中には 20 万円以上支払っている人もいます。

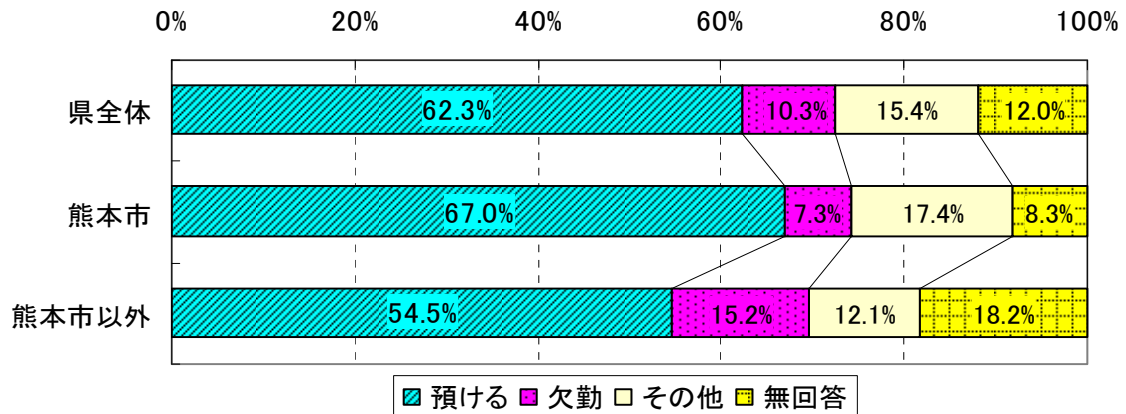
	県全体 N=100	熊本市 N=65	熊本市以外 N=35
約1～4万円	24	14	10
約5～9万円	50	33	17
約10～14万円	17	11	6
約15～19万円	2	2	0
約20～30万円	7	5	2



(36) 子どもが病気の時の主な勤務状況

子どもが病気の時は、62.3%の人が、子どもを預けて勤務している。

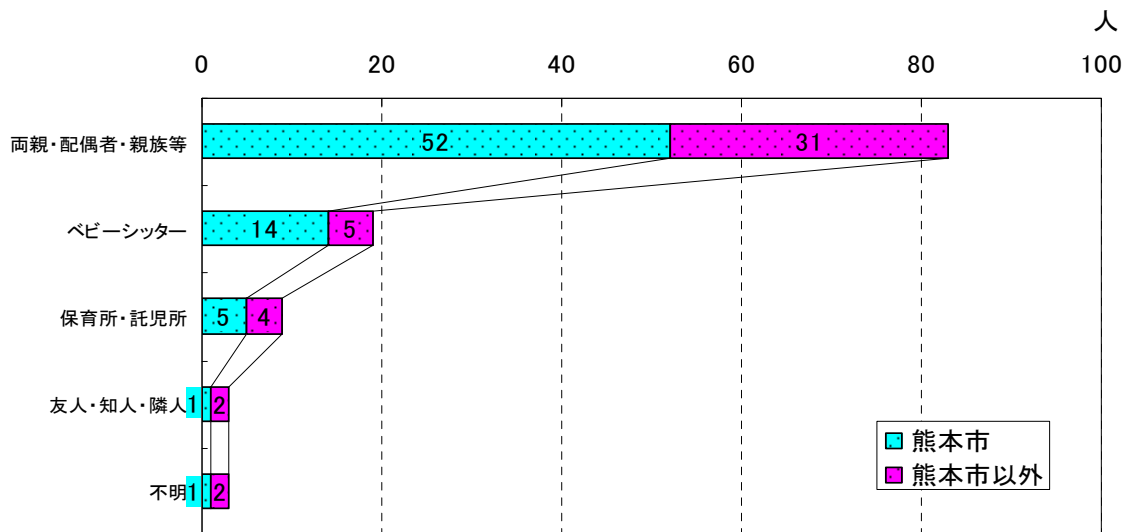
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
預ける	109	73	36
欠勤	18	8	10
その他	27	19	8
無回答	21	9	12



(37) 子どもが病気の時に預ける人(複数回答)

子どもが病気の時に預ける場合は、両親・配偶者・親族等に預けている人が70.9%であり、次いでベビーシッター、保育所・託児所の順となっている。

	県全体 N=117	熊本市 N=73	熊本市以外 N=36
両親・配偶者・親族等	83	52	31
ベビーシッター	19	14	5
保育所・託児所	9	5	4
友人・知人・隣人	3	1	2
不明	3	1	2



(参考) 子どもが病気の時の預け先の内訳

熊本市以外

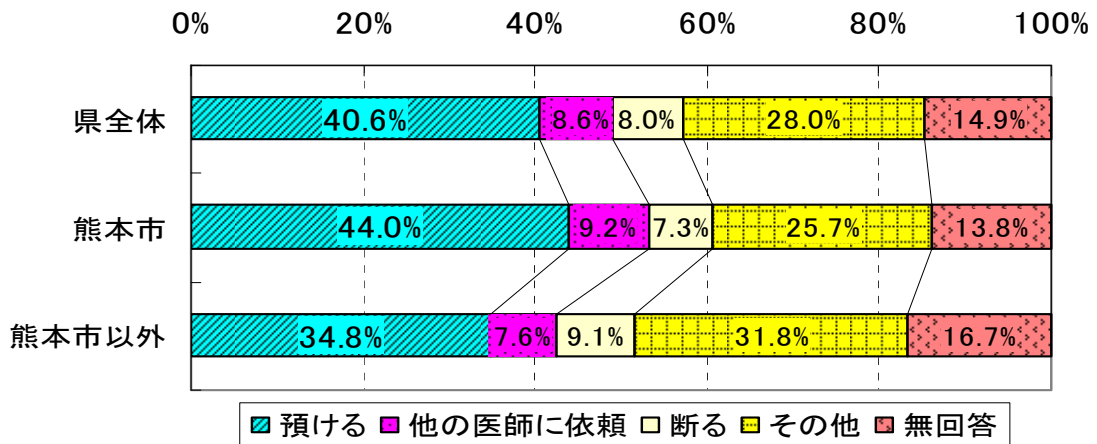
熊本市以外において、約半数の人が両親に預けている。

両親	17	その他の内訳 保育所+両親(2) 保育所+友人等(1) 両親+配偶者(1) 両親+ベビーシッター(3) 両親+親戚等(1)
ベビーシッター	2	
親戚・兄弟	4	
保育所・託児所	1	
配偶者	1	
友人・知人・職員	1	
その他	8	
不明	2	

(38) 緊急呼出し時の対応

緊急呼出しの際は、40.6%の人が預けて医療機関に出向いている。

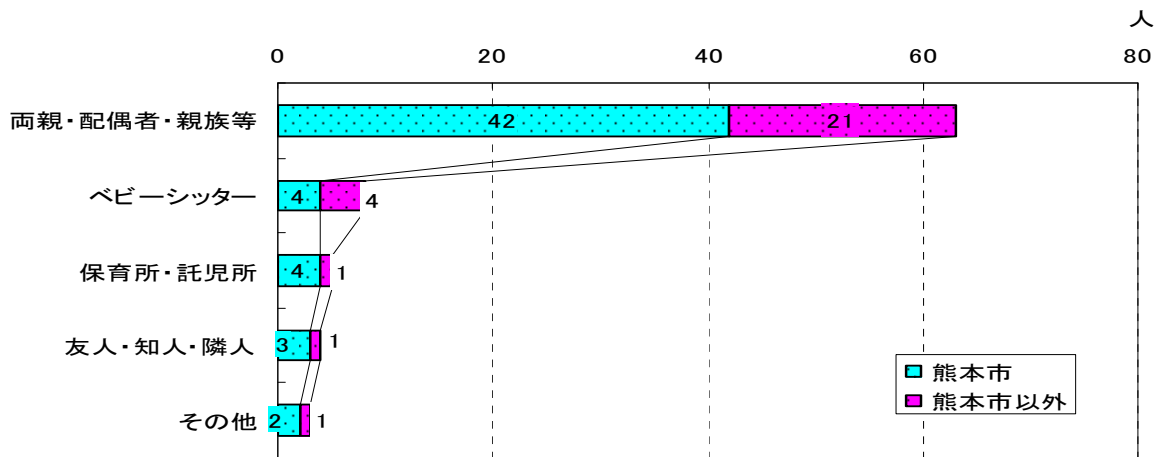
	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
預ける	71	48	23
他の医師に依頼	15	10	5
断る	14	8	6
その他	49	28	21
無回答	26	15	11



(39) 緊急の呼出し時に預ける人 (複数回答)

緊急呼出し時の預け先としては、両親・配偶者・親族等が最も多い。

	県全体 N=78	熊本市 N=55	熊本市以外 N=23
両親・配偶者・親族等	63	42	21
ベビーシッター	8	4	4
保育所・託児所	5	4	1
友人・知人・隣人	4	3	1
その他	3	2	1
無回答	1	0	1



(参考) 緊急の呼び出し時に預け先

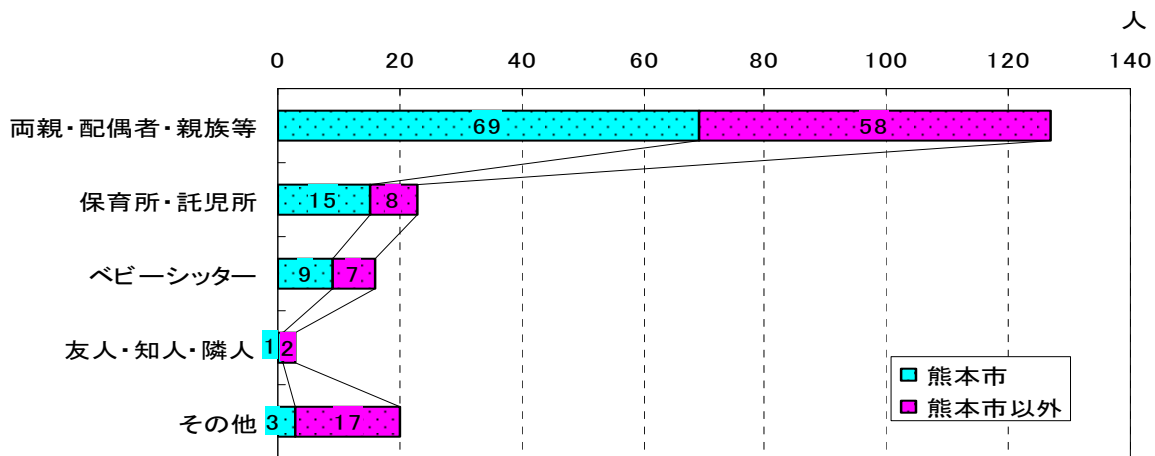
熊本市以外

両親	18
配偶者	10
ベビーシッター	4
親戚・兄弟	4
保育所・託児所	1
友人・知人・職員	1
その他	0
不明	1

(40) 学会・日直時の育児者(複数回答)

学会・日直時の育児者は、両親・配偶者・親族等が最も多い。

	県全体 N=175	熊本市 N=109	熊本市以外 N=66
両親・配偶者・親族等	127	69	58
保育所・託児所	23	15	8
ベビーシッター	16	9	7
友人・知人・隣人	3	1	2
その他	20	3	17



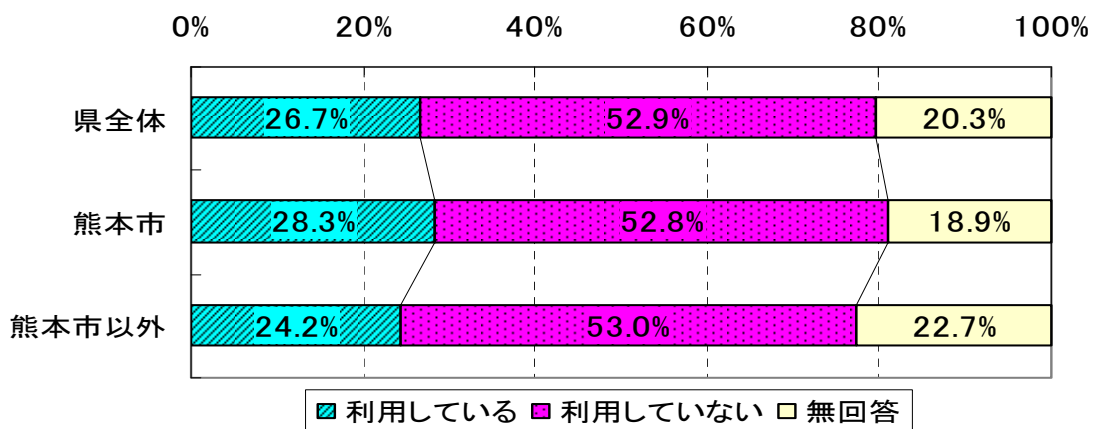
熊本市以外

両親	37
配偶者	24
保育所・託児所	8
ベビーシッター	7
親戚・兄弟	5
友人・知人・職員	2
その他	7
不明	10

(41) 時間外保育の利用

時間外保育を利用している人は26.7%であった。

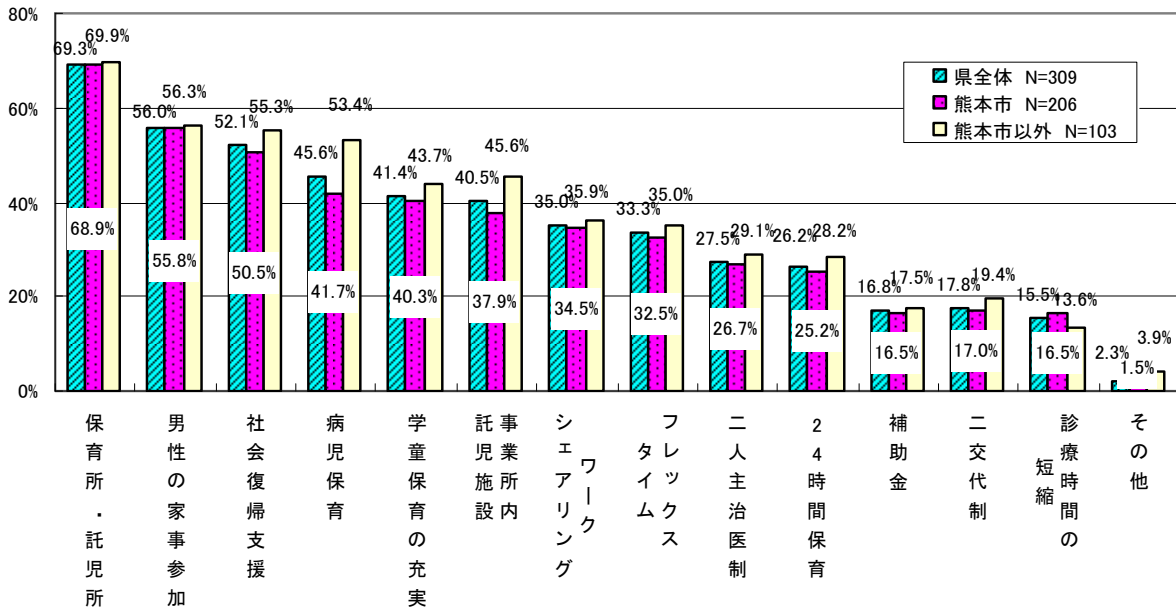
	県全体 N=172	熊本市 N=106	熊本市以外 N=66
利用している	46	30	16
利用していない	91	56	35
無回答	35	20	15



(42) 仕事と育児を両立させるために必要な支援策

「保育所や託児所の整備」が必要と考えている人が約7割おり、次いで男性の家事の参加や休業取得後の職場復帰支援を必要と考えている人が5割を超している。

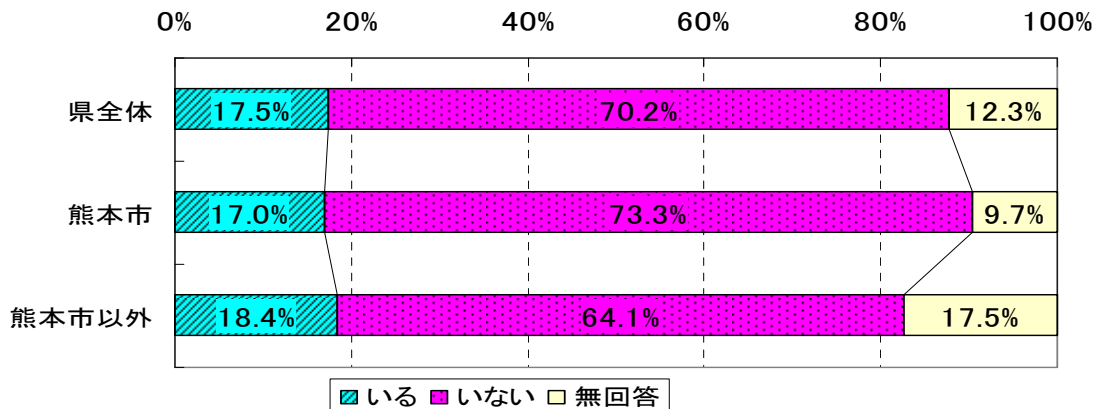
	保育所・託児所	男性の家事参加	社会復帰支援	病児保育	学童保育の充実	事業所内託児施設	ワークシェアリング	フレックスタイム	二人主治医制	24時間保育	二交代制	補助金	診療時間の短縮	その他
県全体	214	173	161	141	128	125	108	103	85	81	55	52	48	7
熊本市	142	115	104	86	83	78	71	67	55	52	35	34	34	3
熊本市以外	72	58	57	55	45	47	37	36	30	29	20	18	14	4



(43) 要介護者が身近にいる人

要介護者がいる人は17.5%であった。

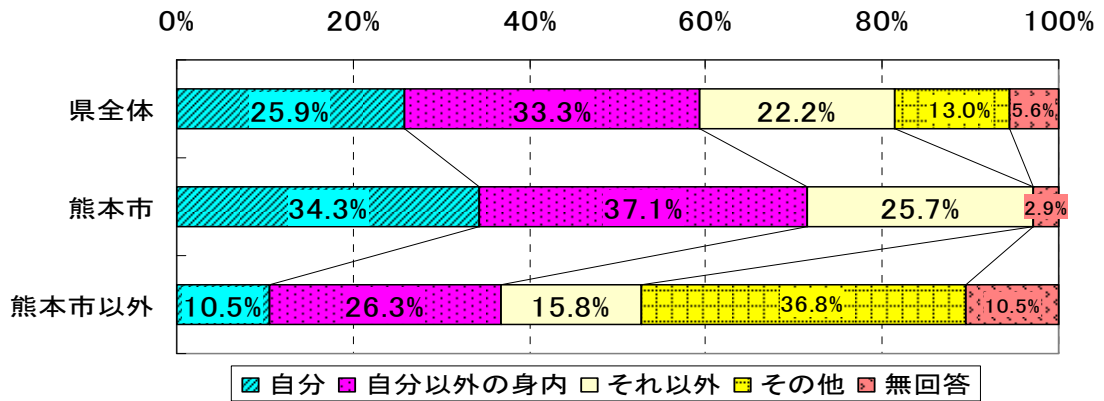
	県全体 N=309	熊本市 N=206	熊本市以外 N=103
いる	54	35	19
いない	217	151	66
無回答	38	20	18



(44) 要介護者の主な介護者

要介護者の介護を主になっている人は、自分以外の身内が 33.3%、自分が 25.9%、それ以外が 22.2%であった。

	県全体 N=54	熊本市 N=35	熊本市以外 N=19
自分	14	12	2
自分以外の身内	18	13	5
他人、施設等	12	9	3
その他	7	0	7
不明	3	1	2

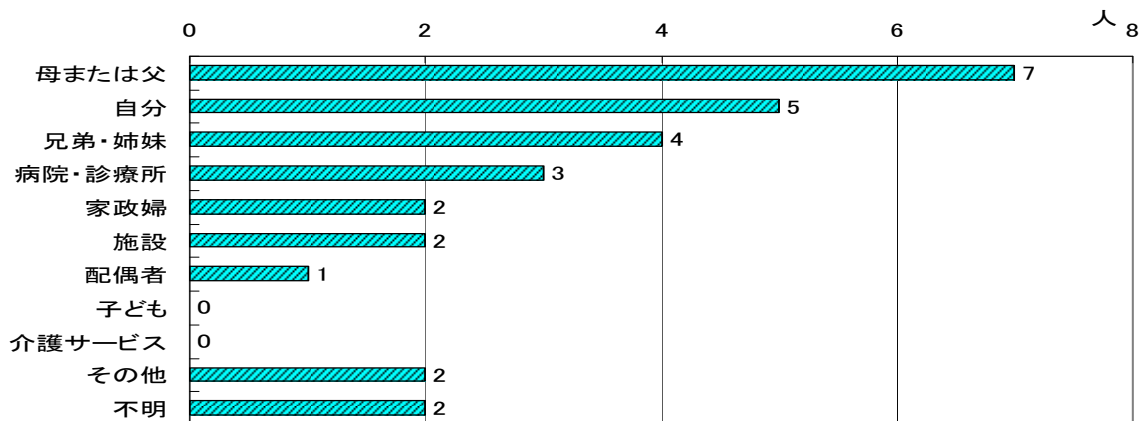


(参考) 主な介護者の内訳(複数回答)

熊本市以外において、主な介護者は、両親、自分、ついで「兄弟・姉妹」とつづいている。

熊本市以外

母または父	7
自分	5
兄弟・姉妹	4
病院・診療所	3
家政婦	2
施設	2
配偶者	1
子ども	0
介護サービス	0
その他	2
不明	2



(45) 介護休暇の取得状況（主な介護者が自分の方のみ）

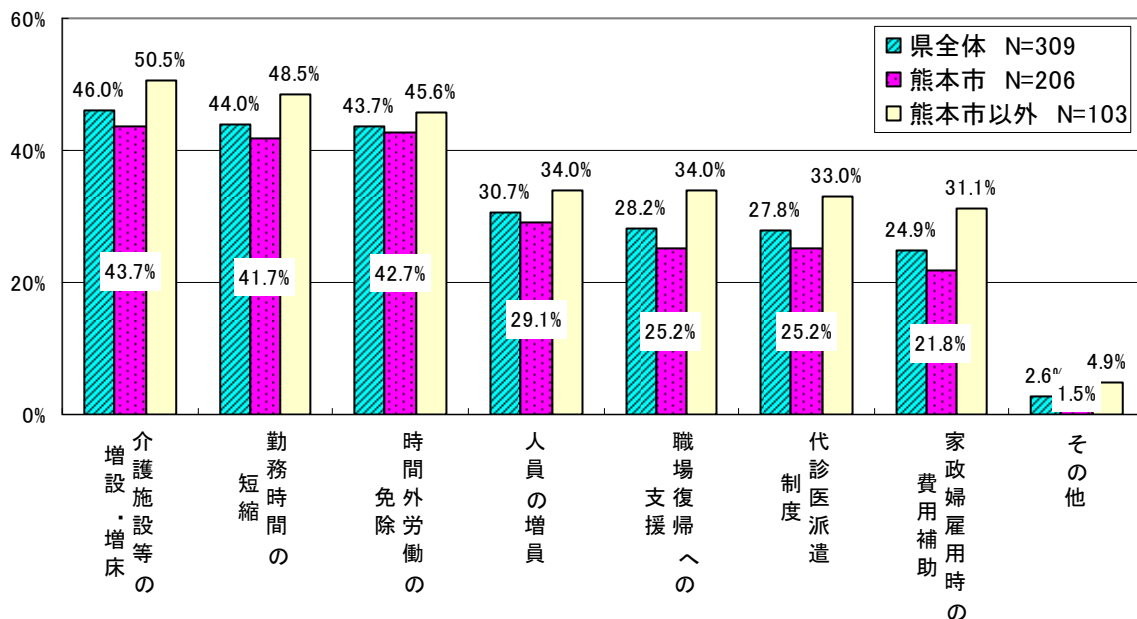
介護休暇を取った人は6人、取っていない人は10人であった。

	県全体 N=16	熊本市 N=11	熊本市以外 N=5
取得した	6	3	3
取得していない	10	8	2

(46) 介護をする際、仕事と家庭生活を両立するために必要な支援策(複数回答可)

「介護施設の増設・増床」を希望する人が約半数であり、次いで「勤務時間の短縮」、「時間外労働の免除」とつづいている。その他、人員(医師)の増員や職場復帰の支援、代診医の派遣制度の導入、家政婦雇用時の費用援助と続いている。

	介護施設等の増設・増床	勤務時間の短縮	時間外労働の免除	人員の増員	職場復帰への支援	代診医派遣制度	家政婦雇用時の費用補助	その他
県全体	142	136	135	95	87	86	77	8
熊本市	90	86	88	60	52	52	45	3
熊本市以外	52	50	47	35	35	34	32	5



(参考)

(47) その他（女性医師として気になる点、問題点等） 自由記述

熊本市以外

〔保育・託児関係〕

- ・医師も看護師も24時間保育、病児保育の環境があれば、随分働きやすくなる。
- ・子どもが高校までの間、授業参観や急な病気、学会への参加など年数回の休みがとれるような体制がほしい。

- ・子どもや両親の健康に漠然とした不安がある。
- ・男性医師が子どものために休暇を取得できない雰囲気がある。
- ・結婚、出産を機に完全に離れてしまう医師も多い。非常にもったいない。

〔医療機関の勤務体制について〕

- ・出産育児を経験すると自然と家庭にしわ寄せがいき、仕事と家庭の両立に悩むようになる。
- ・看護師のような交代勤務制が医師にも必要。
- ・妊娠・出産時の軽減を希望。
- ・出産・妊娠・育児はさけて通れない。必要時に気兼ねなく仕事量の調整ができる仕組み作りを希望。
- ・職場の協力があって、仕事を続けることができ感謝している。

〔職場復帰のための支援について〕

- ・退職後に元の職場や地位に完全に帰ることができるか心配。
- ・夜間や遠隔地での研修参加は難しいので、インターネットを介した研修が普及するとよい。
- ・女性医師の会など先輩の経験や意見を聞きアドバイスを受ける機会が増えるとよい。
- ・仕事をしたくても復帰できない環境の人もおり、就職の斡旋、託児所の増設等が必要。

〔配偶者・家庭の理解、協力等〕

- ・女性医師が増加している中で、社会がまず男性医師が協力的であってほしい。
- ・乳幼児を育てながら常勤医で勤務しているのは、夫や職場の理解、院内保育所、自分自身の情熱。

(48) 医師になって良かったですか。

	県全体N=309	熊本市N=206	熊本市以外N=103
はい	218	147	71
いいえ	9	7	2
どちらとも言えない	11	0	11
分からない	49	45	4
その他	1	0	1
無回答	21	7	14

